

平成26・27年度 武蔵野市教育研究奨励校

研究主題

「知ろう! 考えよう! やってみよう!」

～ 健康教育を通して ～



カルガモのヒナたち
(本校自然ガーデンにて)

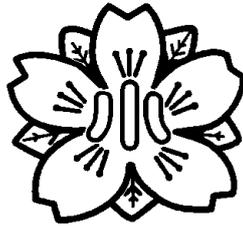


武蔵野市立境南小学校

平成27年12月4日(金)

平成 26・27 年度 武蔵野市教育研究奨励校

研究紀要



研究主題

「知ろう！考えよう！やってみよう！」

～健康教育を通して～

武蔵野市立境南小学校

～目次～

目次	2
あいさつ 教育長 宮崎 活志	3
はじめに 学校長 藤橋 義之	4
I 研究の概要	5
1. 研究主題		
2. 研究主題設定の理由		
3. 目指す児童像		
4. 研究の仮説		
5. 主題に迫るための手だて		
6. 研究構想図		
7. 研究の経過		
8. 研究の成果と課題		
II 分科会実践報告		
運動分科会 分科会の目指す児童像	1 3
分科会研究構想図		1 4
実践例 1年体育 『はしってとんでまねっこめいじん』		1 5
実践例 4年体育 『チャレンジタイム』		2 1
実践例 けやき学級体育 『けやきランドを楽しもう』		2 7
食育分科会 分科会の目指す児童像	3 3
分科会研究構想図		3 4
実践例 4年総合 『給食から見える世界』		3 5
実践例 1年特活 『やさいすきすきだいさくせん』		4 1
保健分科会 分科会の目指す児童像	4 9
分科会研究構想図		5 0
実践例 3年学級活動 『かむかむ大作戦』		5 1
実践例 1年学級活動 『ぼく・わたしの手 きれいかな』		5 7
おわりに（副校長）・御指導いただいた先生	6 3
研究に携わった教職員	6 4

あ い さ つ

武蔵野市教育委員会教育長 宮崎 活志

現在、子供たちの体力や運動能力の低下を改善する取組として、子供たちが基本的な生活習慣を身に付け、健康で規則正しい生活を送ることができるよう、心と体の健康づくりがとても重要視されています。

また、武蔵野市では今年度から平成 31 年度までの 5 カ年で「第二期武蔵野市学校教育計画」を実施し、その中の施策 10 で「体力向上・健康づくりの取組の充実」、施策 11 で「食育の充実」を掲げ、各校で特色ある取組を行っております。

さらに、東京都では平成 32 年（2020 年）の東京大会に向け、オリンピック・パラリンピック教育を展開していくために、今年度は都内 600 校を推進校に指定し、体力向上や健康増進等をはじめ創意工夫した様々な取組を展開しています。

このような中、境南小学校では、平成 26・27 年度東京都のオリンピック・パラリンピック教育推進校の指定を受けるとともに、武蔵野市教育研究奨励校として「知ろう！考えよう！やってみよう！～健康教育を通して～」を研究主題に設定し、精力的に研究に取り組んできました。

本研究では、保健分科会、食育分科会、運動分科会の 3 つの分科会をつくり、それぞれ目指す児童像を「健康の大切さが分かり、日常生活に生かそうとする児童」、「食事の大切さが分かり、食生活を見直しながら、感謝の気持ちを表現する児童」、「運動の大切さが分かり、体を動かす楽しさや喜びを感じて運動する児童」としています。そして、児童自身が健康や健康の保持・増進に向けた行動の大切さに気づき、主体的に取り組むために、「ねらいの明確化と指導内容の年間指導計画への系統的な位置付け」や「学習内容の具体的な手だてと日常化につなげるための工夫」を研究推進の上での大切な視点としました。さらに、「健康」について知識の習得・理解の段階（知ろう）、健康行動を起こそうという気持ちになる段階（考えよう）、健康生活の実践と習慣化の段階（やってみよう）に分けて授業や朝会など様々な教育活動の場面で具体的な取組を進めてきたことが特徴の 1 つであると考えます。

このことにより、健康について知識を広げ、自分自身の健康に関心をもち、実践する児童が増え、目指す児童像に迫る姿が多く見られるようになってきたと伺っております。今後、この 2 年間にわたる本研究の成果が広く市内外の教育実践に寄与されることを心より願っております。

結びに、本研究の推進に御尽力いただきました 藤橋 義之 校長先生をはじめ教職員の皆様の御努力に心から感謝申し上げますとともに、本研究のために温かい御指導・御助言を賜りました講師の先生方並びに東京都教育委員会に厚く御礼申し上げます。

はじめに

武蔵野市立境南小学校長 藤橋 義之

健康第一という言葉が示すように今後の激動の社会を生きていく子供たちには、健康と体力が何より大切であるということがいえます。また、生涯にわたって充実した生活を送るためには、子供の頃から運動習慣や生活習慣を確立し、自ら進んで判断し行動することのできる能力・態度を育てることが大切です。

現代の生活環境やライフスタイルの変化は、社会全体の健康生活や食生活、運動習慣への意識低下を助長する要因ともなり、その影響が子供たちの体力低下にもつながっています。生きる源になる健康の保持・増進への意識を高め、学校・家庭・地域社会の連携・協働による教育環境を整えることが重要となります。

教育基本法には、知・徳・体の調和のとれた人間の育成、学校教育法には、健康、安全で幸福な生活のための運動を通じた体力向上と心身の調和的発達の必要性、学習指導要領では「生きる力」の育成として、豊かな心や健やかな体の育成が記されています。社会環境の変化に対応し、主体的に判断・行動し、より良く問題解決する資質・能力を身に付けること、自ら律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を育てること、たくましく生きるための健康・体力を育成することは、学校教育の大きな課題であると言えます。

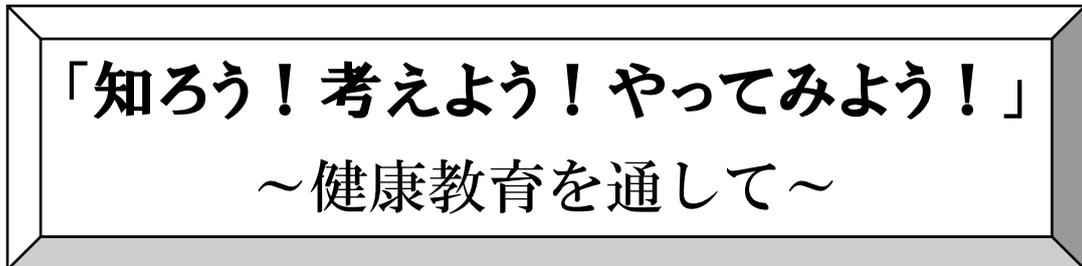
この教育課題の解決に向け、本校では「平成26・27年度武蔵野市教育研究奨励校」「平成26・27年度東京都オリンピック・パラリンピック教育推進校」の指定を受け、「知ろう！考えよう！やってみよう！－健康教育を通して－」を研究主題として、運動・食育・保健の3分野を中心に、体育、生活、家庭、総合的な学習の時間、特別活動、給食の時間、休み時間等において、系統的・横断的な指導に努めました。また、家庭・地域との連携・協働を通して、正しい知識を基に主体的に判断・行動し日常的に実践できる子供の育成を目指して、健康・体力づくりを重点とした研究を進めてまいりました。

本研究を進めるにあたりましては、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 健康教育調査官 森 良一先生、武蔵野大学教育学部講師 橋本由愛子先生、東京学芸大学名誉教授 立木 正先生、国土舘大学体育学部教授 田口康之先生、東京学芸大学教育学部准教授 鈴木 聡先生、横浜国立大学教育人間科学部准教授 物部博文先生、帝京大学医療科学部作業療法学科教授 石井孝弘先生、武蔵野市教育委員会指導課の諸先生方には、懇切丁寧な御指導と御助言をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

本校の研究活動は、未だ十分な成果を挙げたと言えるものではありません。今後も教職員一同、子供が生涯にわたって健康・体力に関心をもち、心身共に健康な生活を送るための実践力を身に付けられるよう研究を推進する所存です。

I 研究の概要

1. 研究主題



2. 研究主題設定の理由

(1) なぜ今、「健康教育」なのか ～今日的な課題から～

文部科学省は、「健康教育の推進と学校健康教育課の設置について」の通達において、健康教育について次のように記している。

『健康教育とは、心身の健康の保持増進を図るために必要な知識及び態度の習得に関する教育』

ここでは、「健康教育」を変化の激しいこれからの社会を生きるために必要な「生きる力」を形成する1つの重要な要素であると位置付けている。学習指導要領では、学校における体育・健康に関する指導の中で、特に、①学校における食育の推進、②体力の向上に関する指導、③安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導の3点を挙げ、各教科等との関連において指導することを求めている。そして、それらの指導により「家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われること」を目的としている。生涯にわたって健康に関する行動様式や考え方の基礎を形成する学童期において、発達段階に応じた計画的な取組によって、基本的な生活習慣を確立し、児童自身が運動に親しみ、健康な生活を送るための資質や能力の基礎を培うことが期待されている。

このように「生きる力」としての「健康教育」が重視されるようになったのは、近年の児童・生徒の体力・運動能力の低下傾向、遊びや運動経験の偏り、ライフスタイルの変化による食事・睡眠などの生活習慣の乱れや生活習慣病の兆候など、児童の健康が極めて大きな問題としてクローズアップされてきたことによる。世界でも類を見ないほどの急速な少子高齢化の波の中で、今後これらの課題が日本社会全体に対して、ますます大きな影響を与え、健康な心と体で「生きる力」の育成が、今まさに学校教育に求められていると考えられる。

(2) 活力ある学校づくりのために ～本校の教育目標と実態から～

本校の教育目標は、「よく考える子」「進んで取り組む子」「やさしい子」「元気な子」である。現在、「進んで取り組む子」と「元気な子」の2つを重点目標として教育活動に取り組んでいる。特に「元気な子」については、「健康」というキーワードの下に、教科「体育」や体育的活動における体力向上の

取組、自校給食を生かした食育の推進、そして系統的な保健学習や保健指導による健康・安全への実践などの特色ある教育活動によって、健やかな体で活力ある学校づくりを目指している。

ただ本校にも、体力・運動能力の低下、外遊びの経験不足や運動する児童としない児童の二極化、習い事やテレビ視聴による睡眠不足の傾向や不規則な生活習慣、偏食や小食、食への感謝の希薄さといった健康に関する多くの課題が見られる。

そうした課題を解決し、児童の生涯にわたる健康づくりの基盤を培うためには、児童自身が健康の大切さに気付き、健康な体をつくるために主体的に取り組もうとすることが重要である。また、体力・運動能力の向上や生活習慣の改善の土台には正しい知識が必要であり、それを生かして自分の生活を捉え直し、家庭・地域と連携して日常化を推進することで、効果的な実践に結び付くのではないかと考えた。

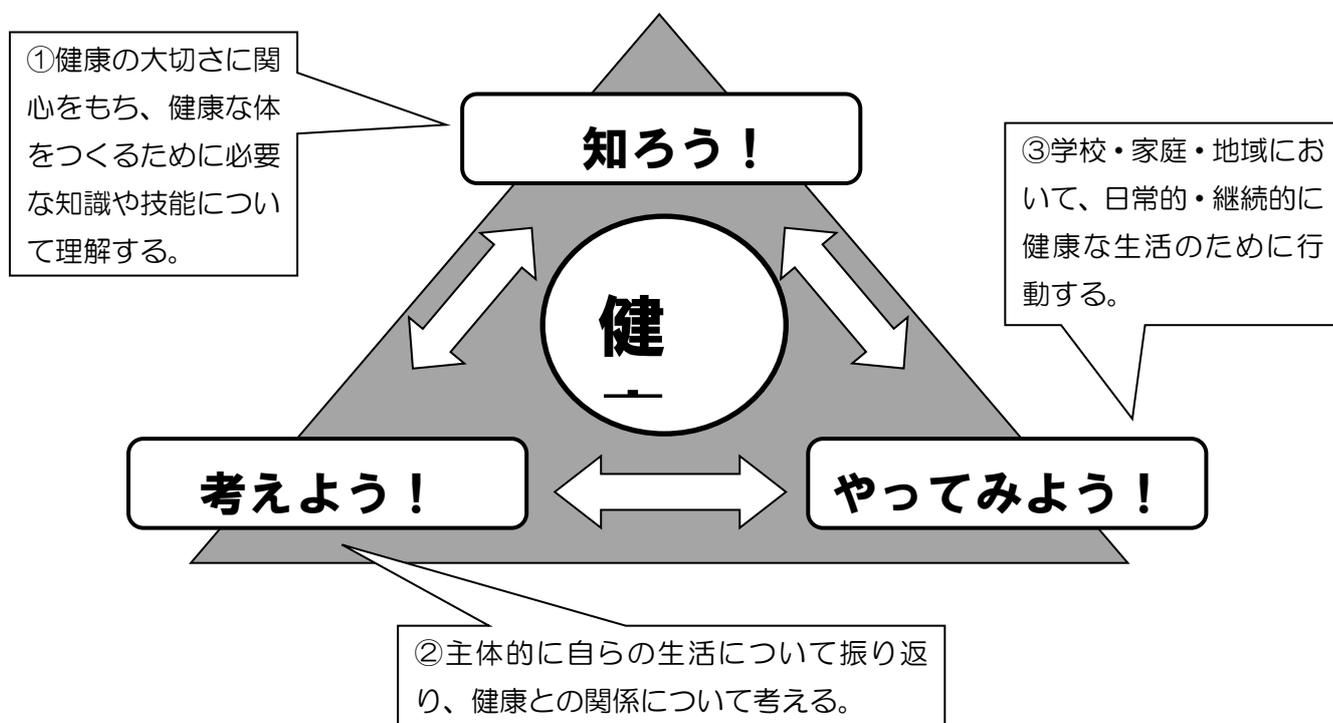
そこで、特色ある教育活動を児童の健康に対する実践的態度に結び付け、さらに「健康教育」を推進するための方向として、次の3つの観点を考えて。

①健康の大切さに関心を持ち、健康な体をつくるために必要な知識や技能について理解する。

②主体的に自らの生活について振り返り、健康との関係について考える。

③学校・家庭・地域において、日常的・継続的に健康な生活のために行動する。

以上の3つの観点を、端的に、「①知る」「②考える」「③やってみる」と表現し、この3つの活動において「知って考える」「考えてやってみる」「やってみて考える」「考えて分からないことは知る」といった双方向に行ったり来たりする学習活動を繰り返すことで、児童が生涯を通じて健康で活力ある生活を送るための基礎が培われて行くのではないかと考え、「知ろう！ 考えよう！ やってみよう！～健康教育を通して～」という研究主題を設定した。



3. 目指す児童像

健康の大切さが分かり、健康な生活を目指す児童

厚生労働省（H20 食生活改善指導担当者研修テキスト）によると、「健康教育」の目的を、

- ①対象者が正しい知識や理解をもつこと（知識の習得・理解）
 - ②健康行動を起こそうという気持ちになること、起こすこと（態度の変容）
 - ③日常生活での健康生活の実践と習慣化（行動変容とその維持）
- としている。

「健康教育」が、児童の生涯にわたる健康づくりの基盤を養うものにするためには、「先生に言われたからする」「みんながやっているからする」ではなく、児童自身が健康や健康行動（健康に良いとされる行動）の大切さに気づき、主体的に取り組もうとすることが重要であると考えた。そのため本研究を通じて「健康の大切さが分かり、健康な生活を目指す児童」を育成していきたいと考えた。

4. 研究の仮説

上記のような児童像を目指すために、本研究では次のような研究仮説を立て研究を進めた。

健康について「知ろう」「考えよう」「やってみよう」という活動を重視し、こうした学習を繰り返すことで、児童は自分自身の生活を振り返りながら健康の大切さに気づき、日常的に健康な生活を目指すことができるであろう。

5. 主題に迫るための手だて

「健康教育」を推進するために、本校では「運動」「保健」「食育」の3つの側面からアプローチし、それぞれに対応した3つの分科会を構成し、互いに連携しながら研究を進めている。

その上で、本研究を進める際、次の2点を大切な視点であると考えた。

- ①ねらいの明確化と指導内容の年間指導計画への系統的な位置付け
- ②学習活動の具体的な手だてと日常化につなげるための工夫

①については、総合的な学習の時間や特別活動などにおいて、ねらいが曖昧なために、健康教育に関して学年間の系統性が不明確な点が見られた。そこでその点を改善し、指導内容を年間指導計画に系統的に位置付け、同時に学習活動のねらいをより明確にした。

（詳細は資料として添付されている「実践事例集」および「健康教育年間指導計画」を参照）

②については、「知ろう！考えよう！やってみよう！」という研究主題に沿い、下記のような手だてが有効ではないかと考え、授業実践を通じて検証した。また、各教科・単元や活動において、いくつかの手だてを効果的に組み合わせることを意識して指導計画・活動計画を立てた。

知ろう！

- ・楽しい活動を取り入れ学習意欲を高めるとともに、基礎的・基本的な内容をしっかりと知識・技能として教える。
- ・視聴覚資料・ICT機器を活用し、授業のねらいを意識しながら分かりやすい資料提示を工夫する。
- ・学校内外のゲストティーチャーと直接交流することで、より幅広い知識を得るとともに、気持ちが通い合うことを大切にする。

考えよう！

- ・友達との交流や発表の場を設けて、自分の考えを広げ深める活動を取り入れるなど、学習形態を工夫する。
- ・自分の考えをまとめたり、自己評価したりするために、学習カード等を工夫する。
- ・学習内容を自分に身近なものとしてとらえ学習意欲を高めるために、体験的な活動を取り入れる。

やってみよう！

- ・運動、保健、生活や食事などについて、体育朝会、保健・安全指導、給食指導、昼の給食放送など学校の教育活動全般にわたって継続的に指導を行うとともに、意識調査や生活リズムカレンダー、実践カードなどを活用して、児童に意識付けをする。
- ・学習活動の中で、保護者や地域とのかかわりを大切にし、健康や食に関して交流の機会を増やす。
- ・保護者・地域にも「健康教育」についての情報発信を積極的に行い日常化につなげる。

6. 研究構想図

[本校の実態]

- ・体力・運動能力の低下傾向
- ・運動経験の二極化
- ・不規則な生活習慣
- ・食への感謝の希薄さ

《本校の教育目標》

- ① よく考える子
- ② 進んで取り組む子
- ③ やさしい子 ○～重点目標
- ④ 元気な子

[学習指導要領]

- ・「生きる力」の育成
- ・生涯を通じて健康な生活を送るための基礎づくり
- ・他教科等との連携
- ・日常生活における実践
- ・家庭や地域との連携

研究主題

「知ろう！考えよう！やってみよう！ ～健康教育を通して～」

【目指す児童像】

健康の大切さが分かり、健康な生活を目指す児童

【保健分科会】

- ◎健康の大切さが分かり、日常生活に生かそうとする児童

【食育分科会】

- ◎食事の大切さが分かり、食生活を見直しながら、感謝の気持ちを表現する児童

【運動分科会】

- ◎運動の大切さが分かり、体を動かす楽しさや喜びを感じて運動する児童

研究仮説

健康について「知ろう」「考えよう」「やってみよう」という活動を重視し、こうした学習を繰り返すことで、児童は自分自身の生活を振り返りながら健康の大切さに気づき、日常的に健康な生活を目指すことができるであろう。

研究の手だて

- ◎学習活動のねらいの明確化と指導内容の年間指導計画への系統的な位置付け。
- ◎学習活動の具体的な手だてと日常化につなげるための工夫。

7. 研究の経過

	日 時	内 容	講 師
平成二十六年 度	4月23日(水)	【講演会】 「健康教育について」	帝京平成大学現代ライフ学部児童学科教授 東京学芸大学名誉教授 立木 正 先生
	6月25日(水)	【研究授業】 運動分科会 6年 体育「体力を高める運動」 授業者 寺尾 桂	帝京平成大学現代ライフ学部児童学科教授 東京学芸大学名誉教授 立木 正 先生
	7月 2日(水)	【講演会】 「健康教育について」	文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 スポーツ庁 政策課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 森 良一 先生
	9月10日(水)	【研究授業】 保健分科会 6年 保健 病気の予防「健康づくり大作戦」 授業者 渋谷 麻里先生	帝京平成大学現代ライフ学部児童学科教授 東京学芸大学名誉教授 立木 正 先生
	11月19日 (水)	【研究授業】 食育分科会 3年 食育「食生活を考えよう」 授業者 村越 夏子	文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 スポーツ庁 政策課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 森 良一 先生
	1月21日(水)	【研究授業】保健分科会 5年 保健「けがの防止」 授業者 大森 智仁	横浜国立大学人間科学部准教授 物部 博文 先生
【研究授業】食育分科会 5年 総合「食品の品質を安全性を 考えよう」 授業者 上川 あゆみ		元東京福祉大学教育学部教授 武蔵野大学教育学部講師 橋本 由愛子 先生	
[研究授業]運動分科会 2年 体育 体づくり運動 「たくさんうごいて ぽっかぽか」 授業者 田中 明子		国土舘大学体育学部体育学科教授 田口 康之 先生	

平成二十七年 度	6月24日(水)	【研究授業】運動分科会 1年 体育 体づくり運動「はしって とんで まねっこめいじん」 授業者 宮内 優香	指導課訪問 武蔵野市教育委員会指導主事の先生方
	6月29日(月)	【研究授業】食育分科会 4年 総合的な学習の時間 「給食から見える世界」 授業者 島田 就二	元東京福祉大学教育学部教授 武蔵野大学教育学部講師 橋本 由愛子 先生
	7月 1日(水)	【研究授業】保健分科会 3年 学級活動(保健)「かむかむ大作戦」 授業者 田中 悠貴	文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 スポーツ庁 政策課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 森 良一 先生
	9月10日(木)	【研究授業】運動分科会 4年 体育 体づくり運動「チャレンジタイム」 授業者 雨谷 若菜	東京学芸大学教育学部准教授 鈴木 聡 先生
		【研究授業】食育分科会 1年 学級活動(食育指導) 「やさいすきすきだいさくせん!」 授業者 林 有里子	元東京福祉大学教育学部教授 武蔵野大学教育学部講師 橋本 由愛子 先生
		【研究授業】保健分科会 1年 学級活動(保健) 「ぼく・わたしの手 きれいかな?」 授業者 伊東 隆一郎	文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 スポーツ庁 政策課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 森 良一 先生
	10月29日(木)	【研究授業】運動分科会 けやき学級 体育 体づくり運動 (感覚統合) 「けやきランドを楽しもう」 授業者 清原 義玄	帝京科学大学 医療科学部 作業療法学科教授 石井 孝弘 先生
	12月4日(金)	研究発表会(全学級公開)	講演「オリンピックと学校体育」 講師 国土舘大学体育学部教授 こどもスポーツ教育学科主任 小学校学習指導要領解説体育編作成協力者 池田 延行 先生

8. 研究の成果と課題

成果

- 保健・食育・運動の3つの分科会で、児童が健康について関心をもつことができるように、いつ、どのような内容を指導すべきか、またどのような活動を行わせたらよいか、手立てを工夫しながら授業実践を重ねた。その結果、健康についての知識を広げ、考え、実践にうつし、自分自身の健康に関心をもつ児童が増えた。
- 保健・食育・運動をまとめた年間指導計画を作成し、各教科等との関連及び系統性を意識して、指導時期や内容を見直した。その結果、児童が「健康に関する話」をする頻度や回数が増えた。また、健康に良いとされる行動（健康行動）を実践する児童が増えた。
- 健康教育に関する学習では、児童が「やってみよう」「やってみたい」と感じる学習活動の工夫、思考を促す場面設定が児童の健康行動の日常化につながるということが分かった。健康に良いから実践しようという言葉がけに加え、視聴覚資料・ICTの活用や具体物の提示、実際の体験活動、ゲストティーチャーの活用等、授業の中でより考え楽しめるような活動を取り入れることが、児童の意欲付けに効果的であった。
- 東京都体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の平成25年度から平成27年度にかけての推移を見ると、児童の体力合計点が、入学間もない低学年においては全国の平均値より下回っているが、3年生以上は男女とも全国平均を上回った。
- 学期毎に行われる学校公開では健康教育に関する授業を全学級で行った。また、健康教育に関する学習カードに保護者からのコメントをいただいたことで、家庭への情報発信となり、家庭での健康教育の活動に関する理解を得ることができ、一層の連携を図ることができた。

課題

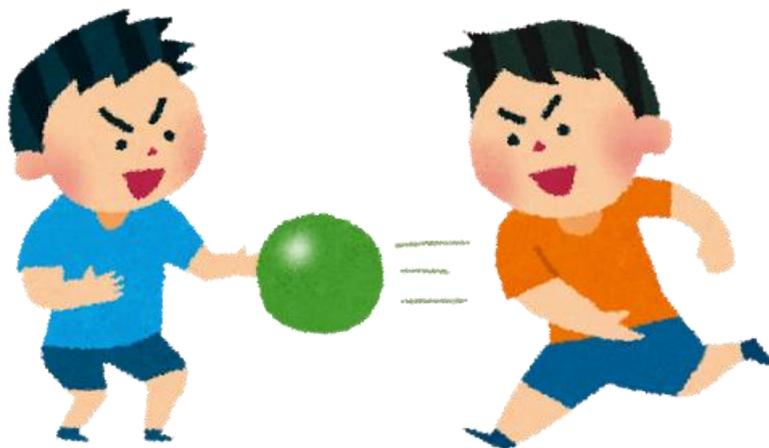
- 健康教育に関する年間指導計画の見直しを行うなど教育活動全体を通じて健康教育に取り組んだことにより、自分の健康について関心をもつ児童の割合が少しずつ増えてきた。しかし、さらに児童の健康への意識を高めていくためには、健康課題を分析し、よりよい取組になるよう指導内容の焦点化や精選を図る必要がある。
- 2年間の研究で、児童が自分自身の健康に関する意識の高まりを感じるようになったが、生涯にわたる健康を維持できるようになるためには、今後も授業、そして授業外での取組を継続する。
- 健康教育を推進する上で、家庭や地域との連携は不可欠である。各家庭の実態が多様化する中で、児童一人一人の課題に寄り添った効果的な働きかけになるよう改善を図っていく。

Ⅱ 分科会実践報告

運動分科会

目指す児童像

運動の大切さが分かり、体を動かす楽しさや喜びを感じて運動する児童



運動分科会研究構想図

研究主題

「知ろう！考えよう！やってみよう！ ～健康教育を通して～」

目指す児童像

健康の大切さが分かり、健康な生活を目指す児童

【運動分科会の目指す児童像】

運動の大切さが分かり、体を動かす楽しさや喜びを感じて運動する児童

【知ろう！】

- (低) ・体を動かす楽しさや心地よさを知る。
・体の基本的な動きを知る。
- (中) ・体を動かす楽しさや心地よさを知る。
・基本的な動きを組み合わせる運動を知る。
- (高) ・体を動かす必要性を知る。
・運動による心と体への効果を知る。
・体力を高める運動の方法を知る。

「運動」分科会
学習のねらいの明確化

【考えよう！】

- (低) ・心と体の変化に気付く。
・動きのポイントを見付ける。
- (中) ・心と体の変化に気付く。
・動きのポイントを意識する。
- (高) ・心と体の関係に気付く。
・動きのポイントを意識する。
・運動するときにアドバイスし合う。

【やってみよう！】

- (低) ・友達と励まし合って運動する。
・活動を工夫して楽しく運動する。
- (中) ・友達と励まし合って運動する。
・友達と関わり合って運動する。
- (高) ・健康行動を日常生活の中で実践する。
・友達と学び合う。

1 単元のねらい

〈運 動〉

- ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体のバランスをとったり移動したりする運動をできるようにする。

〈態 度〉

- ・運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

〈思考・判断〉

- ・体づくりのための簡単な運動の行い方を工夫できるようにする。

2 単元の評価規準

	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運 動	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとったり移動をしたりする動きを通して、体の基本的な動きを身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。 ②速さやリズム、方向を変えて、体を移動する動きができる。
態 度	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組んでいる。 ・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動している。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしている。 ・場の安全に気を付けて運動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組んでいる。 ②運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動している。 ③友達と協力して、用具の準備や片付けをしている。 ④場の安全に気を付けて運動している。
思 考 ・ 判 断	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動したりするなど、楽しく運動できる行い方を選んでいる。 ・多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り、友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動遊びの行い方や動き方を知っている。 ②友達のよい動きを見付けている。 ③体のバランスをとったり移動をしたりする動きを工夫している。

3 単元設定の理由

1年生の発達段階では常に新しいものに興味が移っていく。運動を行う場合は短時間で次々に運動の種類を変化させることで、様々な動きを習得することができる。本単元では体づくり運動の中でも「多様な動きをつくる運動」を行い、将来的に技能を身に付けたり、体力を高めたりするための様々な体の基本的な動きを培うことをねらいとしている。また、普段何気なくしている動きや、知っている動物の動きを題材にすることで授業以外の遊びの場でも取り入れ、日常化につなげていきたいと考え、本単元を設定した。

4 児童の実態

○児童の実態

本学級の児童は、明るく元気で外遊びが好きな児童が多く、中休みは積極的に外で鬼ごっこやろくぼく、ボールで遊んでいる様子が見られる。一方、外遊びが苦手で、読書をしたり絵を描いたりして室内で過ごす児童も数名見られる。

体育の授業の「器械・器具を使つての運動遊び」では、雲梯を使った運動遊びに取り組んだ。最後まで渡れる児童が5名程度、他の児童は2～4本しか進めず、腕で自分の体を支える力がまだついていない児童が多いことが分かった。

また、運動会の表現では、手と足を同時に動かすことに苦勞する児童もいたが、全体的に積極的に練習に取り組むことができた。

○育てたい児童像

本単元を通して、体を動かす楽しさや、友達と協力して運動する喜びを味わうことができる児童を育てていきたい。1年生の1学期なので、様々な運動に取り組む中で、体の基本的な動きを知るとともに、友達とかかわり合いながら楽しく運動をさせたい。

5 主題に迫るための手だて

(1) 知ろう！

①運動の仕方

体の基本的な動きや各種運動の基礎となる動きを知り、動きのポイントを見付ける。また1年生の1学期なので、幼稚園や保育園、運動会で経験した動きも取り入れる。活動を通して、運動の心地よさや楽しさを味わう。

②きまりや安全

体育でのきまりや用具の正しい使い方などを提示する。

(2) 考えよう！

①動きの工夫

友達の動きを参考にしたり、友達と話し合ったりして新しい動きを考える時間を確保する。

②学習カード

運動時間の確保をするため、また学習カードを書くことが目的にならないようにするため、無理なく取り組める学習カードを用意する。

(3) やってみよう！

①発表の場

友達のよい動きを真似て、自分の動きに取り入れる。また、自分の考えた動きや友達と考えた動きを安全に気を付けて試す場を設定する。

②運動の日常化

日常生活でも継続して活動できるように声かけをし、運動の日常化を図る。
保護者との連携をより深め、児童の運動の日常化を図る。

6 学習過程（4時間扱い） 【知】知ろう 【考】考えよう 【や】やってみよう

時	ねらい	児童の主な活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> 多様な運動遊びの動きのポイントを知り、進んで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動 <ul style="list-style-type: none"> 全身じゃんけんのやり方を知る。【知】 ○体のバランスを取る運動遊び「もぐらになろう」 <ul style="list-style-type: none"> 「座る」「立つ」動きの確認をする。 「回る」動きの確認をする。 【知】 ○体を移動する運動「まねっこ遊び」 <ul style="list-style-type: none"> 「這う」「歩く」「走る」の動きの確認をする。 【知】 <p>(うさぎ・ライオン・小鳥・鉛筆・蛇・ロボット・蟻・モルモット)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。(運動) 体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組んでいる。(態度) 運動遊びの行い方や動き方を知っている。(思考・判断)
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 多様な運動遊びの動きのポイントを確かめながら、運動の動きの条件を変化させ、工夫して取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動 <ul style="list-style-type: none"> 全身じゃんけんをする。【考】【や】 ○体のバランスを取る運動遊び「もぐらになろう」 <ul style="list-style-type: none"> 「座る」「立つ」動きの工夫をする。 「回る」動きの工夫をする。【考】【や】 ○体を移動する運動「まねっこ遊び」 <ul style="list-style-type: none"> 「這う」「歩く」「走る」の動きの工夫をする。 【考】【や】 <p>(うさぎ・ライオン・小鳥・鉛筆・蛇・ロボット・蟻・モルモット)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。(運動) 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動している。(態度) 友達のよい動きを見付けている。(思考・判断)
3	<ul style="list-style-type: none"> 多様な運動遊びの動きのポイントを知り、進んで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動 <ul style="list-style-type: none"> 全身じゃんけんをする。【考】【や】 ○体のバランスを取る運動遊び「もぐらになろう」 <ul style="list-style-type: none"> 「座る」「立つ」動きの工夫をする。 「回る」動きの工夫をする。 【考】【や】 ○体を移動する運動「まねっこ遊び」 <ul style="list-style-type: none"> 「這う」「歩く」「走る」の動きの確認をする。 【知】 <p>(蝶・蟹・ゴリラ・象・カタツムリ・金魚・やきいも)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 速さやリズム、方向を変えて、体を移動する動きができる。(運動) 友達と協力して、用具の準備や片付けをしている。(態度) 体のバランスをとったり移動をしたりする動きを工夫している。(思考・判断)
4	<ul style="list-style-type: none"> 多様な運動遊びの動きのポイントを確かめながら、運動の動きの条件を変化させ、工夫して取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動 <ul style="list-style-type: none"> 全身じゃんけんをする。【考】【や】 ○体のバランスを取る運動遊び「もぐらになろう」 <ul style="list-style-type: none"> 「座る」「立つ」動きを工夫する。 「回る」動きを工夫する。 【考】【や】 ○体を移動する運動「まねっこ遊び」 <ul style="list-style-type: none"> 「這う」「歩く」「走る」の動きの工夫をする。 【考】【や】 <p>(蝶・蟹・ゴリラ・象・カタツムリ・金魚・やきいも)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 速さやリズム、方向を変えて、体を移動する動きができる。(運動) 場の安全に気を付けて運動している。(態度) 友達のよい動きを見付けている。(思考・判断)

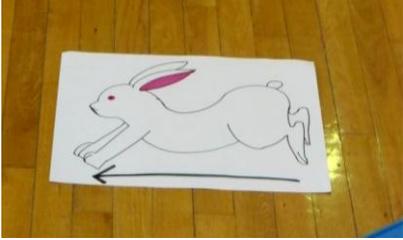
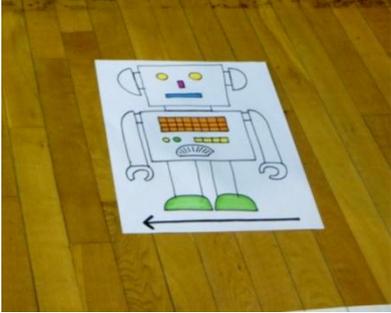
7 本時の学習 (2/4)

(1)本時のねらい

- 姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。
- 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動している。
- 友達のよい動きを見付けている。

(2)本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点	☆評価
5分	1. 準備運動 (ラジオ体操、首回し) を行う。 2. 本時のめあてを確認する。	○体の部位を十分にほぐすように指導する。 ○本時のめあてを伝える。	
	いろいろなうごきあそびをしよう		
10分	3. 「もぐらになろう」を楽しむ。 ・リズムに合わせて立つ、座る (①1人で、②2人で、③2人で交互) 4. 全身じゃんけんを行う。 	○きまりを確認する。 ・太鼓1回⇒1人で立つ、座る ・太鼓2回⇒2人で立つ、座る ・笛⇒2人が交互に立つ、座る ○ゲー、チョキ、パーの動きを確認する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">リズムに合わせて、2人組で全身じゃんけんを行っています。</div>	☆姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。【観察】
	5. 「バレリーナになろう」を楽しむ。 ①利き足で回る。 ②利き足で反対方向に回る。 	○ポイントの確認をする。 ・軸足はつま先、勢いを付ける。 ・軸足を動かさないようにする。 ・着地は枠の中に入るようにする。 ・手で勢いを付けると回りやすい。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">バレリーナのようにその場で一回転しています。</div>	☆姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。【観察】
	③「全身じゃんけんバレリーナ」をする。	○きまりの確認をする。 ・じゃんけんで負けた方がバレリーナになる。 ・太鼓の音でじゃんけんが始まる。	

<p>20分</p>	<p>6. 「まねっこ遊び」を楽しむ。 (うさぎ・ライオン・小鳥・えんぴつ・へび・ロボット・あり・モルモット)</p> <p>まねっこをするものの絵を、活動場所ごとに置きました。</p>   	<p>○準備は協力させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マットは1枚を4人で持ち、運ぶ。 ・マットの耳はしまう。 <p>○きまりの確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笛が2回聞こえたら教師に注目する。 ・一方通行。 ・空いているところ探し ・走らない <p>○運動のポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きを大きくする。 ・動きを工夫する。 <p>○児童に発表させ、友達の動きを見せる。</p>	<p>☆運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動している。【観察】</p> <p>☆友達のよい動きを見つけている。【観察・学習カード】</p> 
<p>10分</p>	<p>7. 片付けと学習カードの準備</p> <p>8. 振り返り 学習カードに記入する。</p> <p>9. 整理運動</p> <p>10. 次回の予告</p>	<p>○協力して片付けるように声かけをする。</p> <p>○次回の見通しをもたせる。</p>	<p>へびのように、地面を這っています。</p>

8 資料

・「1ねん はしって とんで まねっこめいじん」学習カード

1ねん はしって とんで まねっこめいじん

◎→よくできた ○→できた △→もうすこし <なまえ> _____

がっ にち()							
はしって☆とんで まねっこめいじん		はしって☆とんで まねっこめいじん		はしって☆とんで まねっこめいじん		はしって☆とんで まねっこめいじん	
ともだちと なかよくできた		ともだちと なかよくできた		ともだちと なかよくできた		ともだちと なかよくできた	
ともだちのよい ところをみつけた		ともだちのよい ところをみつけた		ともだちのよい ところをみつけた		ともだちのよい ところをみつけた	
じょうずにまねが できた		じょうずにまねが できた		じょうずにまねが できた		じょうずにまねが できた	
すすんでじゅんびと かたづけができた		すすんでじゅんびと かたづけができた		すすんでじゅんびと かたづけができた		すすんでじゅんびと かたづけができた	
せんせいより		せんせいより		せんせいより		せんせいより	

9 成果と課題

成果

- ・多様な動きをつくる運動遊びを知り、経験することで、基本的な動きを身に付けるきっかけとなった。
- ・友達の良い動きを参考にしたり、友達と話し合ったりして新しい動きを考える時間を確保したことで、交流する楽しさや運動する楽しさを味わい、次への意欲につなげることができた。
- ・無理なく取り組める学習カードを用意したことで、運動量の確保につながった。
- ・太鼓や笛、音楽のリズムに合わせて運動することで、児童が意欲的に運動に取り組み、「もっとやりたい」「次は〇〇の動きがしたい」など、運動の継続や日常化につながる活動となった。

課題

- ・友達の良い動きや自分の工夫した動きについて、発表した動きを試す時間をもう少し確保するべきであった。
- ・学習課題を達成するために、言葉かけの精選を行うなど、個に応じた具体的な支援を明確にしなければならない。
- ・「まねっこ遊び」では児童の動きを予測し、それぞれの場に適した用具を選び、児童の安心感やさらなる意欲につなげ、より動きの幅を広げる。

1 単元のねらい

〈運 動〉

- ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。

〈態 度〉

- ・運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

〈思考・判断〉

- ・多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。

2 単元の評価規準

	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運 動	・体のバランスをとる運動、体を移動する運動の基本的な動きや用具の操作を身に付けることができる。またそれらを組み合わせた動きができる。	① 用具の操作に慣れることができる。 ② 体のバランスをとる運動や体を移動する運動の基本的な動きができる。 ③ 力加減や目線を意識して、スムーズに用具の操作ができる。 ④ 用具を操作しながら体のバランスをとる運動や体を移動する運動ができる。
態 度	・体づくり運動に進んで取り組もうとしている。 ・運動の順番やきまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。	① 体づくり運動に進んで取り組んでいる。 ② きまりを守り、友達と声を掛け合いながら運動している。 ③ 場や用具の安全に気を付けて運動している。
思 考 ・ 判 断	・体づくり運動の行い方を知るとともに、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。	① 多様な動きをつくる運動のポイントが分かり、友達のよい動きを見付けている。 ② 友達のよい動きを見付け、自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。

3 単元設定の理由

友達との交流を通して、協力したり助け合ったりして様々な運動をすると、楽しさが増すことに気付かせたい。そのために、児童同士が豊かに交流できる運動を中心に単元を構成した。用具は、児童が意欲的に活動に取り組み、達成感や喜びを多く味わわせることができるよう、ボールや風船など、児童が扱いやすい物を選択した。また、身近にある用具を使用することで、運動の日常化を図ることができると考えた。友達との交流や用具操作を通して、活動を楽しみながら運動を経験していくうちに、結果として基本的な動きを身に付けることができるように本単元を設定した。

4 児童の実態

○児童の実態

1学期に実施した実態調査結果から、本学級の児童は「休み時間に校庭で遊ばない・あまり遊ばない児童」が7割を超えていることが分かった。普段の学校生活を振り返ると、特に女子児童は外遊びをせずに教室で読書をしたり、友達とおしゃべりをしたりして過ごすことが多い。しかし「運動をして楽しいと感じるのはどんな時」という質問では、「できなかったことができた時」と答えている児童が圧倒的に多い。このことから、達成感や喜びを味わうことが運動の楽しさと感じる経験をより多くすることが大切ではないかと考えた。

また「好きな遊び、運動は何ですか」の質問では、「ボール運動」と回答した児童が5割以上いる。ボールを操作する運動やゲーム要素を取り入れた運動に対しては意欲をもって取り組めると予想される。

○育てたい児童像

体ほぐしの運動では、自分の心や体に対する気付きについて振り返る言葉かけをすることで、体を動かすこと自体の楽しさを体感させる。また、用具を操作する簡単な動きから、徐々に難しい動きへ段階的につなげていき、「できるようになってきた」「できるようになった」という達成感を多く味わわせた。そのために、動きのポイントを教師が明確に示したり、友達同士でポイントを教え合う時間を確保したりして、成功体験を積み重ねることが大切である。また扱う用具については、ボールや輪、長なわなどを使い、今までに使った経験のある用具でも、多くの動きのバリエーションがあることや友達と関わりながら運動ができるということを知ってほしい。遊びや運動への興味をさらに深め、友達と関わりながら体を動かす楽しさを感じ、日常的に体を動かす児童を育てたい。

5 主題に迫るための手だて

(1) 知ろう！

児童の実態や学習活動に合わせた教材教具

風船や棒など、児童にとって身近な物を教具として扱うことで、児童が意欲的に基本的な動きを組み合わせた多様な動きをつくる運動を学ぶことができる。

(2) 考えよう！

①活動の振り返り

動きのポイントを見付けられるように、友達と共有する時間を確保する。学習カード等を活用し、児童が動きのポイントや工夫したことを振り返り、自分の課題を確かめられるようにする。

②児童同士が交流して行う運動

児童同士が交流しながら行う運動を中心に単元を構成した。友達と協力して運動をすると楽しさが増すことに気付かせる。

(3) やってみよう！

①見せ合い、教え合い、発表し合う場の設定

自分の考えた動きを行うだけでなく、考えた動きを友達と見せ合い、教え合い、発表し合う場を設定する。

②日常化

休み時間や放課後などに継続して取り組み、より動きの幅を広げられるように言葉かけをする。

6 学習過程（6時間扱い） 【知】知ろう 【考】考えよう 【や】やってみよう

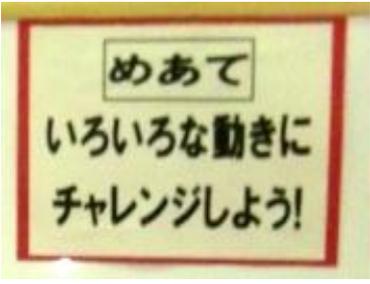
時	ねらい	児童の主な活動			評価規準			
1	・心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなで関わり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすることができる。	<p>○体ほぐしの運動</p> <p>・風船を使った様々な運動に取り組む。 (風船トランポリン、風船リレー、風船鬼, いろいろアタック)</p> <p>※いろいろアタックでは、人数を増やしたり、使える体の部位を限定したりする。【知】【や】</p>	○用具を操作する運動（力試しの運動）	<p>・用具の操作に慣れることができる。(運動)</p> <p>・体づくり運動に進んで取り組んでいる。(態度)</p>				
2	・運動の行い方やポイントを知り、基本的な動きを身に付けている。		○用具を操作する運動（体のバランスをとる運動）		<p>・体のバランスをとる運動や体を移動する運動の基本的な動きができる。(運動)</p> <p>・きまりを守り、友達と声を掛け合いながら運動している。(態度)</p>			
3(本時)	・友達のよい動きを見つけて、自分の動きに取り入れることができる。		○用具を操作する運動（体のバランスをとる運動）			<p>・力加減や目線を意識して、スムーズに用具の操作ができる。(運動)</p> <p>・場や用具の安全に気を付けて運動している。(態度)</p> <p>・多様な動きをつくる運動のポイントが分かり、友達のよい動きを見付けている。(思考・判断)</p>		
4	・多様な動きをつくるための動きの組み合わせ方を見つけた		○用具を操作する運動（体を移動する運動）				<p>・用具の操作に慣れることができる。(運動)</p> <p>・友達のよい動きを見付け、自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。(思考・判断)</p>	
5	・工夫したりすることができる。		○用具を操作する運動（体を移動する運動）					<p>・体づくり運動に進んで取り組んでいる。(態度)</p> <p>・多様な動きをつくる運動のポイントが分かり、友達のよい動きを見付けている。(思考・判断)</p>
6	・友達のよい動きを見つけて、自分の動きに取り入れることができる。		○用具を操作する運動（体を移動する運動）					

7 本時の学習 (3/6)

(1) 本時のねらい

- 力加減や視線を意識して、スムーズに用具の操作ができる。
- 場や用具の安全に気を付けて運動している。
- 多様な動きをつくる運動のポイントが分かり、友達のよい動きを見付けている。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点	☆評価
5分	<p>1. 準備運動を行う。</p> <p>2. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> いろいろな動きにチャレンジしよう！ </div> <p>・前時までの活動を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> 	<p>○様々な体の部位を十分に動かすように指導する。</p> <p>○本時のめあてを伝える。</p> <p>○見通しをもてるよう学習の流れを掲示する。</p> 	
10分	<p>3. エンジョイランニングを行う。</p> <p>・教師や友達の動きに合わせて走り方を変える。</p> <p>→スキップ、サイドステップ、腕回し など</p> <p>4. 風船を使った運動を行う。</p> <p>・いろいろアタック 1人→2人</p> <p>→使える体の部位を限定する。</p> <p>※手を使う、手と足を使う、手と足と頭を使う。</p> 	<p>○速さやリズムなどを変えながら、様々な走り方ができるように指導する。</p> <p>○周りの友達にぶつからないように気を付けるよう適宜声をかける。</p> <p>○よい動きを見つけた児童は赤白帽子を裏返して、帽子の色を変えるように指示する。</p>  <p>○約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落とさないように高く風船を上げる。 ・安全に気を付ける。 ・1人で2回以上連続は触れない。 	

<p>15分</p>	<p>5. 体育棒を使った運動を行う。 ・体育棒をバランスよく立て、倒れる前に様々な動きを行う。 →拍手、しゃがむ、1回転、友達と場所を入れ替わる など ※人数を増やす ※距離を離す</p>  	<p>○約束を確認する。 ・振り回さない。 ・周りに注意する。 ○運動の行い方を確認する。 ・笛1回⇒拍手 ・笛2回⇒しゃがむ ・笛長く⇒1回転 ○約束を確認する。 ・同時に2本の棒に触らない。 ・棒より前に出ない。 ・スライディングなどの危険なことはしない。 ○運動の行い方を確認する。 ・太鼓1回⇒時計回り ・太鼓2回⇒反時計回り ○グループごとに練習や工夫をする時間を設ける。 ○グループごとに発表させ、友達のよい動きを見付けさせる。よい動きを見付けられない児童には、具体的なよさを示す。 ○もう一度運動に取り組ませる。</p> 	<p>☆力加減や視線を意識して、スムーズに用具の操作ができる。【観察】</p> <p>☆場や用具の安全に気を付けて運動している。【観察・学習カード】</p> <p>☆多様な動きをつくる運動のポイントが分かり、友達のよい動きを見付けている。【観察・学習カード】</p>
<p>10分</p>	<p>6. ボールを使った運動を行う。 ・投げ上げたり、バウンドさせたりしたボールをキャッチする。 →拍手、しゃがむ、1回転、友達とボールを交換する など ※ボールをキャッチするまでの動きを徐々に複雑にする。</p> 	<p>○ボールを正確に操作できるようなポイント(持ち方・手首やひざの使い方など)を考えさせる。</p> 	
<p>5分</p>	<p>7. 片付けを行う。 8. 振り返りを行う。 9. 整理運動を行う。 10. 次回の活動内容を知る。</p>	<p>○協力して片付けと学習カードの準備をするように言葉かけをする。 ○工夫したところ、友達の良かったところを発表させる。 ○次回の見通しをもたせる。</p>	

<p>15分</p>	<p>5. 体育棒を使った運動を行う。 ・体育棒をバランスよく立て、倒れる前に様々な動きを行う。 →拍手、しゃがむ、1回転、友達と場所を入れ替わる など ※人数を増やす ※距離を離す</p>  	<p>○約束を確認する。 ・振り回さない。 ・周りに注意する。 ○運動の行い方を確認する。 ・笛1回⇒拍手 ・笛2回⇒しゃがむ ・笛長く⇒1回転 ○約束を確認する。 ・同時に2本の棒に触らない。 ・棒より前に出ない。 ・スライディングなどの危険なことはしない。 ○運動の行い方を確認する。 ・太鼓1回⇒時計回り ・太鼓2回⇒反時計回り ○グループごとに練習や工夫をする時間を設ける。 ○グループごとに発表させ、友達のよい動きを見付けさせる。よい動きを見付けられない児童には、具体的なよさを示す。 ○もう一度運動に取り組ませる。</p> 	<p>☆力加減や視線を意識して、スムーズに用具の操作ができる。【観察】</p> <p>☆場や用具の安全に気を付けて運動している。【観察・学習カード】</p> <p>☆多様な動きをつくる運動のポイントが分かり、友達のよい動きを見付けている。【観察・学習カード】</p>
<p>10分</p>	<p>6. ボールを使った運動を行う。 ・投げ上げたり、バウンドさせたりしたボールをキャッチする。 →拍手、しゃがむ、1回転、友達とボールを交換する など ※ボールをキャッチするまでの動きを徐々に複雑にする。</p> 	<p>○ボールを正確に操作できるようなポイント(持ち方・手首やひざの使い方など)を考えさせる。</p> 	
<p>5分</p>	<p>7. 片付けを行う。 8. 振り返りを行う。 9. 整理運動を行う。 10. 次回の活動内容を知る。</p>	<p>○協力して片付けと学習カードの準備をするように言葉かけをする。 ○工夫したところ、友達の良かったところを発表させる。 ○次回の見通しをもたせる。</p>	

8 資料

・「チャレンジタイム」学習カード

体づくり運動 学習カード

チャレンジタイム

4年 組 名前

月 日 ()		めあて
①楽しく運動することができた。		③と④について、見付けたことを具体的に書こう。
②場や用具の安全に気を付けて運動できた。		
③運動のポイントを見付けることができた。		
④友達のよい動きを見付けることができた。		
◎ ○ △ で ふ り 返 ろ う 。		

月 日 ()		めあて
①楽しく運動することができた。		③と④について、見付けたことを具体的に書こう。
②場や用具の安全に気を付けて運動できた。		
③運動のポイントを見付けることができた。		
④友達のよい動きを見付けることができた。		
◎ ○ △ で ふ り 返 ろ う 。		

月 日 ()		めあて
①楽しく運動することができた。		③と④について、見付けたことを具体的に書こう。
②場や用具の安全に気を付けて運動できた。		
③運動のポイントを見付けることができた。		
④友達のよい動きを見付けることができた。		
◎ ○ △ で ふ り 返 ろ う 。		

月 日 ()		めあて
①楽しく運動することができた。		③と④について、見付けたことを具体的に書こう。
②場や用具の安全に気を付けて運動できた。		
③運動のポイントを見付けることができた。		
④友達のよい動きを見付けることができた。		
◎ ○ △ で ふ り 返 ろ う 。		

月 日 ()		めあて
①楽しく運動することができた。		③と④について、見付けたことを具体的に書こう。
②場や用具の安全に気を付けて運動できた。		
③運動のポイントを見付けることができた。		
④友達のよい動きを見付けることができた。		
◎ ○ △ で ふ り 返 ろ う 。		

月 日 ()		めあて
①楽しく運動することができた。		③と④について、見付けたことを具体的に書こう。
②場や用具の安全に気を付けて運動できた。		
③運動のポイントを見付けることができた。		
④友達のよい動きを見付けることができた。		
◎ ○ △ で ふ り 返 ろ う 。		

9 成果と課題

成果

- ・身近な用具の特性を知り運動することが、多様な動きの習得に効果的であった。また、分かりやすい指示や掲示物も児童に動きのポイントを伝えるために有効な手だてであった。
- ・楽しみながら運動する中で、体の基本的な動きを自然と身に付けることができた。
- ・友達と交流したり、用具の操作の時間を多くとったりすることで、児童が達成感を多く味わえた。
- ・児童一人一人に用具を用意したので、全員が用具操作の経験を多く積むことができた。
- ・児童が夢中になって運動に取り組み、友達と運動を見せ合い、教え合い、発表し合うことが、さらなる意欲や自信につながり「運動の日常化」の兆しが見えてきた。

課題

- ・友達との関わり合い方、学び方のねらいをより明確にし、友達のよい動きを率先して見付ける手だてを考えていかなければならない。
- ・教師が児童のよい動きを価値付ける個に応じた言葉かけを精選し、実践していく必要がある。
- ・より一層「運動の日常化」を図るために、体育の授業以外での運動・遊びに関する場の設定や用具の確保など、環境整備を進めていく必要がある。

1 単元のねらい

〈運 動〉

- ・感覚機能の視点を意識した運動遊びを通して、多様な動きができるようになる。

〈態 度〉

- ・体の動きに関心を持ち、運動に楽しく進んで取り組むことができる。

〈思考・判断〉

- ・体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。

2 単元の評価規準

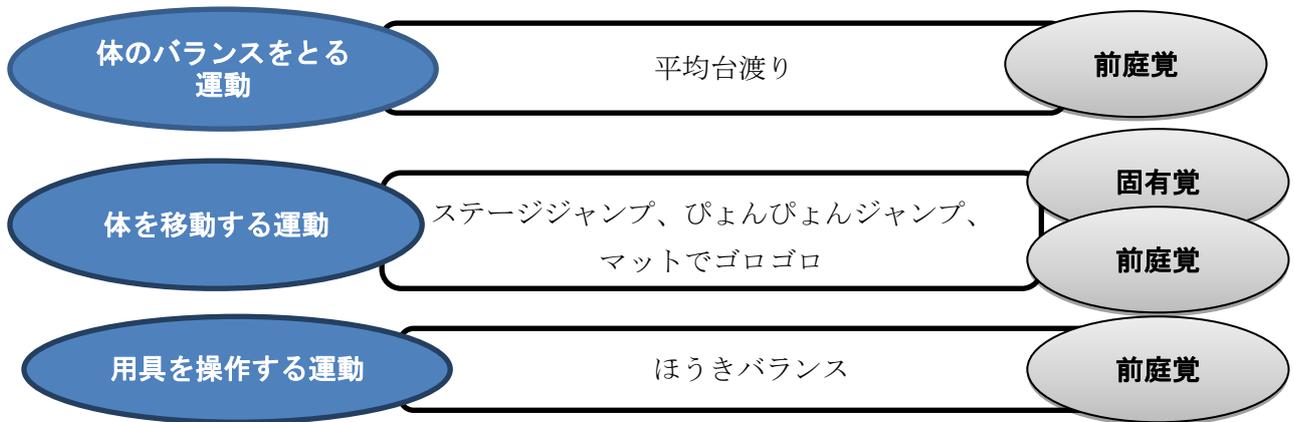
	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運 動	・多様な動きをつくるために、体の基本的な動きを知る。	①サーキット運動のそれぞれの動きができる。
態 度	・体づくり運動に進んで取り組んでいる。 ・順番やきまりを守り仲良く運動をしようとしている。	①体づくり運動に進んで取り組んでいる。 ②運動の順番やきまりを守っている。
思 考 ・ 判 断	・体のバランスをとる運動、体を移動する運動、用具を操作する運動などの体をつくるための運動を工夫できる。	①教師の手本を参考にして、サーキット運動のそれぞれの動きを工夫することができる。

3 単元設定の理由

発達がゆっくりであったりばらつきがあったりする児童には、書字の筆圧の加減が難しい、つまずきやすい、いつも体の一部が動いていたり離席したりする、新しい遊びや動きを怖がるなど、生活や学習の中で様々な課題がある。その原因の一つが、視覚・聴覚・触覚などによって体の様々な部位から一斉に送られてくる大量の感覚情報を、脳がうまく分類・整理できないことにあると言われている。特に感覚機能の中でも無意識の内に活動している**前庭覚**（体の傾きや動き、運動の速さの変化を知る）や**固有覚**（力加減をコントロールしたり手足の位置や体の動きを知ったりする）は、自覚されにくいためにそこから生じる課題が「わざと」「ふざけて」していることだと誤解されやすい。またこれらの感覚は、幼児期の遊びや生活経験を通じて徐々に統合が促されていくものであるが、経験の少なさや本来の機能の弱さなどにより、十分に育っているとは言えない児童が多い。

学習指導要領の体づくり運動（第1・2学年、第3・4学年）の中には、多様な動きをつくる運動（遊び）として、体のバランスをとる運動（遊び）、体を移動する運動（遊び）、用具を操作する運動（遊び）が示されている。これらは、前庭覚、固有覚の統合と大いに関連のある内容であり、体づくり運動を感覚統合の視点で捉え直すことで、本学級の児童の発達課題に合った指導が行えるのではないかと考えた。

本単元では、児童の前庭覚及び固有覚の実態をチェックリストと日常的な観察によって把握し、それを基に個別の目標を設定した。そして体づくり運動の内容とそれぞれの活動で養われる感覚を分析し、児童が活動しやすく、楽しさや達成感を得ながら学習できる活動を下図のように設定した。



本単元を通じてそれぞれの活動が上達するだけでなく、身につけた動きや養われた感覚を生かして生活そのものの質の向上につなげ、児童一人一人の「生きやすさ」を高めていきたいと考える。

4 児童の実態

○児童の実態

本学級は1～6年生の児童からなる知的障害固定学級である。児童の多くは、体育の授業に積極的であり、課題に対してまじめによく取り組んでいる。本年度は1学期を通して3分間マラソン、ラジオ体操、体づくり運動に取り組んだ。低学年の児童の中には体の動かし方やボディイメージが確立していない児童もいるので、一つ一つの動きを確認しながらラジオ体操に取り組み、正確な動きを意識して体操ができるようになった。体づくり運動では背中合わせになって二人で力を合わせて立ち上がる運動に取り組み、回数を重ねることでほとんどの児童が立ち上がることができた。一方で、1～6年生が在籍しているので、運動経験や体の大きさ、筋力といった運動能力は児童によって差が見られる。また障害種や障害の程度に応じて、運動によっては教師や介助員の手助けを受けながら取り組んでいる。

○アンケートより（全児童26名）

①休み時間は校庭で遊んでいますか。

(1) 遊んでいる	12人
(2) だいたい遊んでいる	8人
(3) あまり遊んでいない	4人
(4) 遊んでいない	2人

②一週間のうち、何日くらい運動やスポーツをしていますか。（体育の授業はのぞく）

(1) 毎日	5人
(2) 3～6日	8人
(3) 1～2日	7人
(4) しない	6人

③運動をして、楽しいと感じるのはどんな時ですか。(複数回答有)

(1) はじめての運動をする時	3人
(2) できないことを頑張っている時	6人
(3) できなかったことができた時	10人
(4) 体を思い切り動かしている時	14人
(5) 友達や先生にほめられた時	15人
(6) みんなで一緒に運動をする時	5人
(7) 競争やゲームに勝った時	12人

アンケート結果より休み時間は校庭で遊んでいると答えた児童が、学級に半数以上いることが分かった。一方で休み時間の様子を見てみると、外に出ていく児童と中で遊ぶ児童が固定化されている。またアンケート後、気温が高くなるにつれて外に行く児童が減っているように感じられる。次に、1週間の運動量を見てみると、通常の学級では毎日体を動かしているのと答えたのは501人中153人で、3分の1以上の児童があてはまる。一方で、けやき学級では、体育の時間以外で毎日体を動かしている児童は26人中5人であり、5分の1の児童にとどまっている。その原因としては、放課後に運動系の習い事をしている児童が少ないことや、外に遊びに行くことが少ないことが考えられる。最後に、「運動をして、楽しいと感じるのはどんな時ですか」という問いに対しては、半数以上の児童が「友達や先生にほめられた時」、「体を思いきり動かしている時」が楽しいと答えている。

○目指す児童像

- ・体を動かす楽しさや心地よさを感じ、自ら体を動かそうとする児童

5 主題に迫るための手だて

(1) 知ろう！

運動の仕方

多様な動きをつくるために、どんな動きがあるか手本を見せる。体の動きを言語化したり、分解したりしてより具体的なイメージをもつ。これらを手だてとして体の基本的な動きを知る。

(2) 考えよう！

①きまりや安全

どうしたら安全に運動できるかを考えて運動に取り組んでいる。低学年は、待機する場所や、教師の声かけで始めるといったルールを全ての運動で統一する。高学年は、導入の場面で今日ケガをしないためにどうすればいいか確認する。

②動きの工夫

それぞれの運動のポイントを考える。示範を基に上手な動きと、そうでない動きを比べさせて違いを考えさせる。低学年は、考える視点を分かりやすくするために、選択肢を提示する。高学年は、どうしてその選択肢を選んだのか、説明させる。

③ボディイメージの確立

整理運動で動かしている部位を意識させるために、「ごほうびマッサージ」を行う。サーキット運動の各運動を重点的に練習する時間(1～3時間目)を行うことで、それぞれの運動が体のどの部位を使っているのか、明確にする。

(3) やってみよう!

個に応じた指導

個に応じた運動を決定するために事前に各担任がそれぞれの児童の固有覚、前庭覚、視覚に関する実態調査票に記入する。実態調査票からわかったことを基に、各児童の取り組む運動のめあてを決める。

6 学習過程（6時間扱い） 【知】知ろう 【考】考えよう 【や】やってみよう

時	ねらい	児童の主な活動	評価規準
1	・多様な動きをつくるために、体の基本的な動きを知る。	<p>○安全に運動するための活動の仕方を学ぶ。【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の移動の仕方 ・きまりや順番を守る <p>○けやきランドに向けての運動の説明と練習 【知】【や】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステージジャンプ ・ぴょんぴょんジャンプ <p>○サーキット運動の流れを体験する。【知】【や】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の順番、動線を知る。 <p>○ごほうびマッサージ【考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の終わりに疲れた部分をマッサージする。疲れた部分を考えることで、1時間の中でどこをよく使ったか意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキット運動のそれぞれの動きができる。(運動) ・体づくり運動に進んで取り組んでいる。(態度) ・運動の順番やきまりを守っている。(態度) ・教師の手本を参考にして、サーキット運動のそれぞれの動きを工夫することができる。(思考・判断)
2	・多様な動きをつくるために、体の基本的な動きを知る。	<p>○安全に運動するための活動の仕方を学ぶ。【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の移動の仕方 ・きまりや順番を守る <p>○けやきランドに向けての運動の説明と練習 【知】【や】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マットでゴロゴロ ・平均台渡り <p>○サーキット運動の流れを体験する。【知】【や】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の順番、動線を知る。 <p>○ごほうびマッサージ【考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の終わりに疲れた部分をマッサージする。疲れた部分を考えることで、1時間の中でどこをよく使ったか意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキット運動のそれぞれの動きができる。(運動) ・体づくり運動に進んで取り組んでいる。(態度) ・運動の順番やきまりを守っている。(態度) ・教師の手本を参考にして、サーキット運動のそれぞれの動きを工夫することができる。(思考・判断)
3	・多様な動きをつくるために、体の基本的な動きを知る。	<p>○安全に運動するための活動の仕方を学ぶ。【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の移動の仕方 ・きまりや順番を守る <p>○けやきランドに向けての運動の説明と練習 【知】【や】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほうきバランス <p>○サーキット運動の流れを体験する。【知】【や】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の順番、動線を知る。 <p>○ごほうびマッサージ【考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の終わりに疲れた部分をマッサージする。疲れた部分を考えることで、1時間の中でどこをよく使ったか意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキット運動のそれぞれの動きができる。(運動) ・体づくり運動に進んで取り組んでいる。(態度) ・運動の順番やきまりを守っている。(態度) ・教師の手本を参考にして、サーキット運動のそれぞれの動きを工夫することができる。(思考・判断)

4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> サーキット運動を通して体の使い方に慣れながら様々な運動に親しむ。 	<p>○サーキット運動に取り組む。【考】【や】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体を移動する運動 ステージジャンプ ぴよんぴよんジャンプ マットでゴロゴロ バランスを取る運動 平均台渡り 用具を操作する運動 ほうきバランス <p>○ごほうびマッサージ【考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の終わりに疲れた部分をマッサージする。疲れた部分を考えることで、1時間の中でどこをよく使ったか意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> サーキット運動のそれぞれの動きができる。(運動) 体づくり運動に進んで取り組んでいる。(態度) 運動の順番やきまりを守っている。(態度) 教師の手本を参考にして、サーキット運動のそれぞれの動きを工夫することができる。(思考・判断)
5	<ul style="list-style-type: none"> サーキット運動を通して体の使い方に慣れながら様々な運動に親しむ。 	<p>○サーキット運動に取り組む。【考】【や】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体を移動する運動 ステージジャンプ ぴよんぴよんジャンプ マットでゴロゴロ バランスを取る運動 平均台渡り 用具を操作する運動 ほうきバランス <p>○ごほうびマッサージ【考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の終わりに疲れた部分をマッサージする。疲れた部分を考えることで、1時間の中でどこをよく使ったか意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> サーキット運動のそれぞれの動きができる。(運動) 体づくり運動に進んで取り組んでいる。(態度) 運動の順番やきまりを守っている。(態度) 教師の手本を参考にして、サーキット運動のそれぞれの動きを工夫することができる。(思考・判断)
6	<ul style="list-style-type: none"> サーキット運動を通して体の使い方に慣れながら様々な運動に親しむ。 	<p>○サーキット運動に取り組む。【考】【や】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体を移動する運動 ステージジャンプ ぴよんぴよんジャンプ マットでゴロゴロ バランスを取る運動 平均台渡り 用具を操作する運動 ほうきバランス <p>○ごほうびマッサージ【考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の終わりに疲れた部分をマッサージする。疲れた部分を考えることで、1時間の中でどこをよく使ったか意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> サーキット運動のそれぞれの動きができる。(運動) 体づくり運動に進んで取り組んでいる。(態度) 運動の順番やきまりを守っている。(態度) 教師の手本を参考にして、サーキット運動のそれぞれの動きを工夫することができる。(思考・判断)

7 本時の学習（4／6）

（1）本時のねらい

○サーキット運動を通して体の使い方に慣れながら様々な運動に親しむ。

（2）本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意事項	☆評価
10分	1. 準備運動（ラジオ体操） 2. 本時のめあてを確認する。	○本時のめあてを伝える。	
	けやきランドを楽しもう		☆体づくり運動に進んで取り組んでいる。【観察】
25分	3. 用具などの準備 4. 「けやきランド」を楽しもう。 (前半) ・サーキット運動に取り組む。 ①ステージジャンプ ②けんけんジャンプ ③マットでゴロゴロ ④平均台渡り ⑤ほうきバランス	○マット、平均台、跳び箱の運び方に気を付けさせる。 ・マットは4人で運ぶ。 ・マットの耳をしまう。 ・跳び箱は持ち手を持つ ○きまりを確認する。 ・順番を守る。 ・自分の運動能力を考えて、コースを選ぶ。 ・できそうにない場合は手助けを求めてよい。	☆運動の順番やきまりを守っている。【観察】
	5. きまりやよい動きの共有を行う。	○T2～5、介助員に児童の安全管理と、それぞれの運動でお手本となりうる児童を探してもらおう。	☆教師の手本を参考にして、サーキット運動のそれぞれの動きを工夫することができる。【観察】
	6. 「けやきランド」を楽しもう。 (後半) ・お手本をもとにサーキット運動に取り組む。	○児童の手本をもとに動きのポイントを確認したり、きまりを守れていることを具体的にほめたりする。	☆サーキット運動のそれぞれの動きができる。【観察】
10分	7. 片づけをする。 8. 感想を聞く。 9. ごほうびマッサージを行う。	○用具の運び方に気を付けるよう声掛けする。 ○疲れた部位をマッサージし、1時間の中で使った部分を意識させる。	

8 参考文献

- ・「体づくり運動」実践事例集 東京都教育庁指導部指導企画課
- ・これだけは知っておきたい「体づくり運動」の基本 東洋館出版社 白旗和也
- ・発達の気になる子の学校・家庭で楽しくできる 感覚統合あそび ナツメ社 川上康則

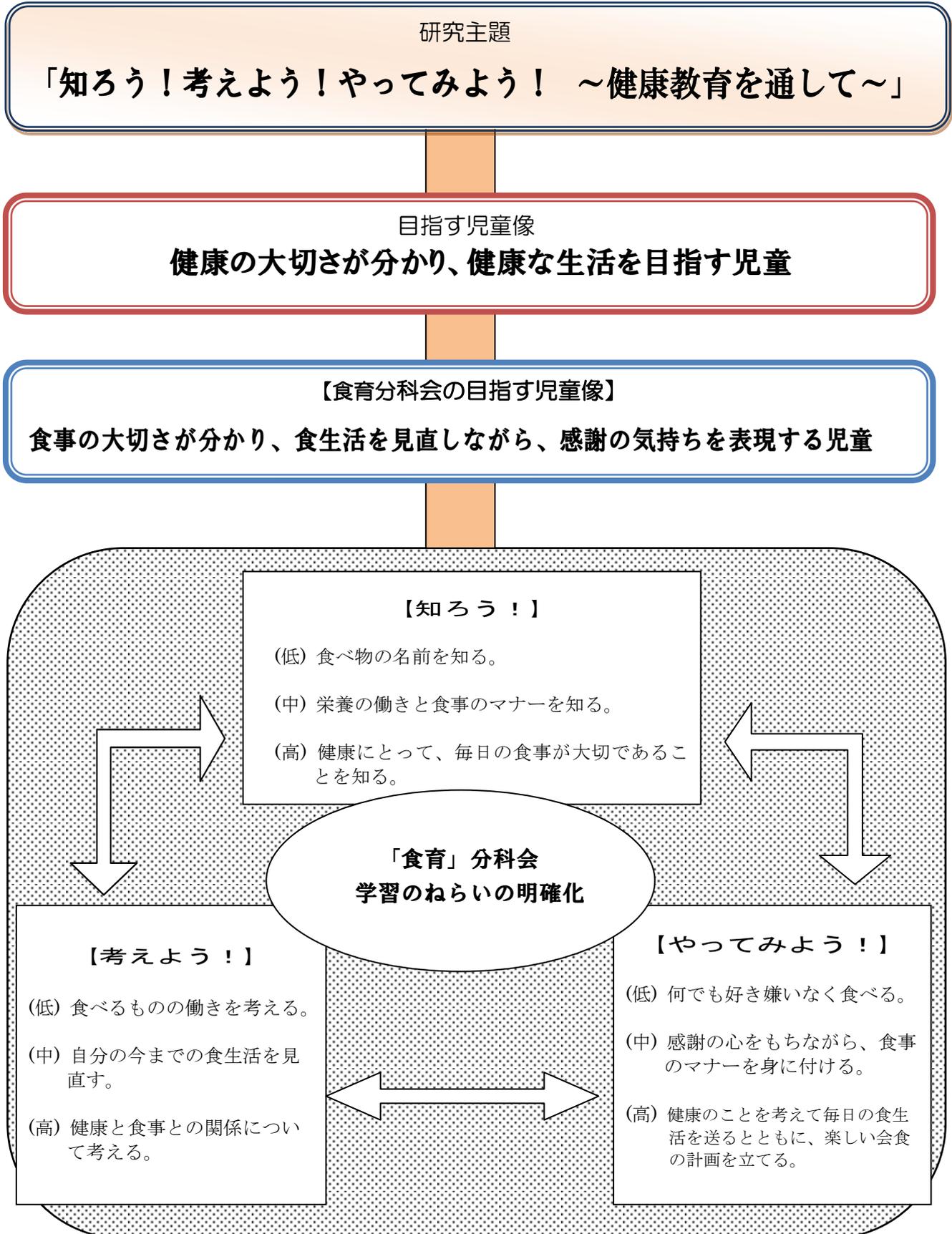
食育分科会

目指す児童像

食事の大切さが分かり、食生活を見直し
ながら、感謝の気持ちを表現する児童



食育分科会研究構想図



1 単元のねらい

〈学習方法に関すること〉

- ・給食調理の方や栄養士の方に話を聞き、給食ができるまでの過程や工夫を調べることができる。
- ・給食調理の方や栄養士の方から聞いた話を自分なりにまとめたり、調理士の方に分からないことや疑問に思ったことをインタビューしたりできる。

〈自分自身に関すること〉

- ・給食ができるまでの過程に関心を持ち、自分の考えや感想をもちながら、自分で追究したい課題について進んで調べまとめることができる。
- ・インタビューから、給食室の仕事の流れや作っている方の思いを知り、感謝の気持ちをもつことができる。

〈他者や社会とのかかわりに関すること〉

- ・給食調理の方や栄養士の方の話を聞いたり、インタビューしたりするなど、進んで交流することができる。
- ・スタッフ交流給食やだんらん給食の内容を意欲的に考え、感謝の気持ちを行動にうつすことができる。また、給食だけではなく、家庭での食事に関心を持ち、感謝の気持ちをもって楽しく食事することができる。

2 単元の評価規準

	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
学習方法に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・給食室の1日について調べたいことを見つけ、進んで調べることができる。 ・給食室の1日を理解し、分かったことや感想を適切な方法で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食ができるまでの過程や工夫に関心を持ち、進んで調べようとしている。 ・実際の給食室の1日を知ろうとし、ワークシートにまとめようとしている。
自分自身に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・給食ができるまでの過程に関心を持ち、知りたいことなどを進んで調べまとめることができる。 ・インタビューしたことから、給食室の仕事の流れや思いを知り、感謝の気持ちをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食ができるまでの過程に関心を持ち、自分の課題を進んで調べ、まとめようとしている。 ・インタビューのまとめや栄養教諭の話を基に、給食に関わる方々に対して感謝の気持ちを持ち、その思いを感想に書こうとしている。
他者や社会とのかかわりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューすることを決め、積極的に話したり聞いたりすることができる。 ・スタッフ交流やだんらん給食の内容を意欲的に考え、感謝の気持ちを行動にうつすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理員に進んで質問したり、聞いたりして調理士の思いを知ろうとしている。 ・感謝の気持ちを進んで表現しようとしている。

3 単元設定の理由

学校給食は、食材の生産者や調理員、栄養士など多くの人々が心を込めて作ったものであることを理解し、感謝の気持ちをもって残さず食べようとするのが重要である。しかし、実態を見てみると、毎日食べられることが当たり前になっていて、心を込めた食事のあいさつができなかつたり、給食を残してしまつたりする児童がいる。また、食事の準備・片づけ等のマナーを守れていない児童もいる。このことから本単元を通して、自分たちが食べている給食には多くの人の苦労や思いがあることを理解し、改めて給食を食べられることへの感謝の気持ちをもたせ、それを態度として表せるよう指導する。

4 児童の実態

○児童の実態

クラスの児童は3年生の時から給食をよく食べ、また残食が少ないクラスであった。4年生になつてもその点は基本的に変わっていない。「いただきます」の後に量を減らす児童は2・3名。「ごちそうさま」の後に残って食べる児童は2～4名で、他の児童はほとんど残すことがない。

しかし、食事のマナーについては多くの課題が見られる。給食前、手洗いなどの準備を早めに済ませること、配膳まで静かに座って待つこと、食事中にふさわしい会話をするなどの約束を守れない児童もいる。本単元を通して、マナーを含め、『食全体』に対する感謝の思いを強く意識し、その思いをしっかりと表現できるようにさせたい。

また、食材の3つの栄養素などの知識的な学習については、比較的意欲的に取り組む児童が多い。例えば「こんにゃく」に対して、「畑のこんにゃくいもから作られているのに、イモと同じ栄養素ではないのですか？」と質問してくる児童も見られる。また、多くの児童が、食材も単一のグループ分けができないことに気付いている。

○育てたい児童像

「おいしい」「あったかい」「おかわり」等、食にまつわる言葉や「おたがいさま」「おすそ分け」等、《食の精神》から生まれたと言える言葉から考えられることは、人間にとって食事をとることは、共生する中で人格的な高まりを期待できる重要かつ日常的なふれ合いの場であることを示している。そうした意味でこの『給食から見える世界』の学習を、児童の人間的な成長を促す機会として大切にしたい。

食のマナーについては、高学年に向けていろいろな角度から学ばせたい。食育の学習を重ねながら、知識のつながりを広げ、食卓を囲んだ時に楽しく会話し、食事の準備や後片付けを進んでやろうとする児童を育てたい。また、食事を作ることに興味をもち、手伝いの行動を含め、さらに積極的になってほしい。

食事を作ってもらふことが“当たり前”という感覚のまま、ただ形式的に作った人に感謝するというのではなく、いろいろな学習を重ねる中で、心から『ありがたく』思い、自然に感謝の思いを表していけるようになってほしい。児童のこうした“当たり前”感覚からの意識転換を促すために、給食室調理員の方々や栄養士にインタビューや質疑応答する機会をもつことは意義深い。知らなかったことを知る知的な学習以上に、そうした方々と直接交流することによって、作っている人の思いが児童に伝わり、気持ちが通い合うことが可能になる。そのとき、児童の心に《本当の感謝》の気持ちが芽生えてくるのではないかと期待している。

そして、できれば子供たちと話し合いながら、教室と給食室をつなぐ『声のおたより』を発行し、心の交流が定期的に図られるようにしたい。また、本校でのランチランドを使った『だんらん給食』は、

地域の方や家族に感謝の気持ちを表す交流の場として、さらにマナーを学ぶ場として大きな意義があり、食育の成果を発揮し表現する機会として十分に活用していきたい。そうした活動を繰り返すことが、家庭で食事を作ってくれる家族への感謝の思いやそれに伴う行動につながってくるのではないかと考える。

5 主題に迫るための手だて

(1) 知ろう！

①資料の工夫

給食室の一日流れを知るために仕事内容を時系列に沿ってまとめる。給食室の一日の仕事内容を知り、調理員の「うれしいこと」「大変なこと」「工夫していること」を色分けした付箋に書き、資料に貼ることで理解を深める。その資料を教室に掲示し、つねに給食に関する情報に触れていくようにする。

②ゲストティーチャーの活用

栄養士や調理員が授業に入り、専門的な立場から指導することで、給食作りについて理解を深める。

(2) 考えよう！

①学習過程の工夫

第1次から4次で学習したことをもとに、スタッフ交流給食（児童と調理員さんが一緒に給食を食べる）やだんらん給食（児童と保護者、地域の方が一緒に給食を食べる）で、感謝の気持ちを表現できるように計画を立てる。

②学習形態の工夫

調理員や栄養士の話を聞いて気が付いたことを共有し、児童の問題意識を高めるためにグループで話し合う。

(3) やってみよう！

①感謝の気持ちを伝える

給食室の方への感謝の気持ちを手紙に書く。感謝の手紙は、学期に1回書く。継続して取り組むことで、感謝の気持ちを持ち続けられるようにする。

②家庭との連携

ワークシートに学習の記録に家庭からの通信欄を入れ、学校で行っている食育の指導について各家庭に知らせ、保護者の理解と意識を高めていく。

③お昼の放送

給食委員会の児童が毎日、その日の給食についての話をしている。栄養士の話から、その原稿を作るために時間がかかっていること、しっかり聞くことで食への理解を深めることができることを聞いた。それを踏まえ、さらに意欲をもって給食の放送を聞き、児童の「食」への興味・関心を高めていく。

6 学習過程（5時間扱い） 【知】知ろう 【考】考えよう 【や】やってみよう

時	ねらい	児童の主な活動	評価規準
1	・給食ができるまでの過程を知る。	○給食ができるまでの過程を考え、理解する。【知】	・給食ができるまでの過程に関心を持ち、知ろうとすることができる。 (態度)
2	・映像や写真から実際の給食室の一日を知る。	○実際の給食室の一日を理解し、自分の考えを書く。【知】【考】	・給食室の1日について調べたいことを見つけ、計画的に調べることができる。 (態度) ・給食室の1日を理解し、感想を適切な方法で表すことができる。(思考・判断・表現)
3	・インタビューすることを決め、積極的に話す。	○調理員さんにインタビューする。【知】	・インタビューすることを決め、積極的に話したり聞いたりすることができる。 (態度)
4 (本時)	・インタビューしたゲストティーチャーの話から、給食室の仕事の流れや思いを知り給食に関わる人たちへの感謝の気持ちをもつ。	○インタビューしたことから、給食室の仕事の流れや思いを知り、感謝の手紙を書く。【考】	・インタビューしたことから、給食室の仕事の流れや思いを知り、感謝の気持ちをもつことができる。 (思考・判断・表現)
5	・スタッフ交流や、だんらん給食の内容を考え、感謝の気持ちを表す。 ・自分の今後の生活にどう生かしていくか考える。	○だんらん、スタッフ給食に向けて計画をたて、実施する。【や】 ○学んだことを行動としてどう表していくか考える。【や】【考】	・スタッフ交流やだんらん給食の内容を意欲的に考え、感謝の気持ちを行動にうつすことができる。 (態度)



【↑給食調理員さんに給食についてたくさんの質問をしました。】

7 本時の学習 (4/5)

(1) 本時のねらい

○栄養士の話から、給食室の仕事の流れや思いを知って給食に関わる人たちへの感謝の気持ちをもつ。

(2) 本時の展開

時間	学 習 活 動	○指導上の留意点	☆評価
10分	1. 前時にまとめた『給食室の1日』を見ながら、振り返りを行う。	○調理員の思いを付箋を見ながら確かめさせる。	
20分	2. 献立を考え、食材の発注をする栄養士の諏訪先生をゲストティーチャーに迎え、話を聞く。 	○ワークシートにメモをしながら聞くように指導する。 (内容) ①メニュー ②材料選び ③注文について ④毎日の給食作り ⑤おたよりづくり	
	3. 児童から栄養士へ質問する。	○事前に用意した質問だけでなく、話を聞いて、新たに気付いたことなども質問させる。	☆インタビューしたことから、給食室の仕事の流れや思いを知り、感謝の気持ちをもつことができる。【観察・ワークシート】
	4. 調理員や栄養士からの話をもとに給食作りの大変さや感謝の気持ちなどを手紙に書く。		
	5. 発表する。	○感謝の気持ちを態度として示すことまで書けている児童がいれば優先的に発表させる。	

8 資料（実際に授業で使用した掲示用資料やワークシートなど）

- ①『給食室の1日』……給食室の1日の流れを作る
- ②『食材の注文』……どれだけ前に注文するか／注文に関する苦労、悩み事、頑張っていることなど

9 成果と課題

成果

- ・給食室の一日の仕事内容やインタビュー内容を教室に掲示していたことで、児童が給食のことを考える機会が増えた。
- ・ゲストティーチャーの活用として、調理員へのインタビューや栄養士の話を通して、給食についての理解を深めることができた。
- ・学習過程の工夫として「だんらん計画」を活用した結果、だんらん給食を活用して、給食室の方々に感謝の気持ちを表したいという児童の意欲が見られた。また、その様子から、保護者の境南小学校の給食への理解も深まった。（アンケート参照）そのことから、だんらん給食によって、給食に関わる人達に児童が感謝の思いを伝えられることや家庭とも連携することができるということが明らかになった。

課題

- ・やってみよう！の感謝の気持ちを伝えるに関しては、感謝の手紙を書く指導だけでなく、児童に他の感謝の表し方を考えさせても良かった。（例：おかわりを沢山する。食器をきれいに片付ける。など）
- ・全体的に「知ろう！」の活動が多くなってしまったため、児童が思考を深めたり、互いに交流したりする活動が少なかった。
- ・学校で行っている食育指導の理解のために、通信欄を入れたことに関しては、本単元を授業で行っている時は、保護者も積極的に考えている様子が通信欄から見られたが、継続することに課題がある。



1 単元のねらい

野菜の名前や種類を知り、野菜に親しみをもち、健康のために好き嫌いせずに野菜をしっかり食べようとする意欲をもつ。

2 単元の評価規準

	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
関心意欲	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の種類（食べている部分が根、茎、葉、実、花…のどこかによって分類）に関心をもち、野菜を進んで食べようとする意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に進んで参加し、野菜に興味・関心をもっている。 好き嫌いせずに野菜を進んで食べようとする意欲をもっている。
思考判断実践	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の種類とその特徴について考える。 野菜を食べる良さについて考える。 家庭や学校給食で、進んで野菜を食べようと実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物の野菜に触れながらその特徴に気付き、野菜のどの部分を食べるかによって仲間分けしている。 野菜を食べると体にどんな良いことがあるのかを自分なりに予想している。 野菜を食べることについて自分なりのめあてをもち、「やさいたべたよ カレンダー」に記録することを通じて進んで野菜を食べようとしている。
知識理解	<ul style="list-style-type: none"> 給食には多くの野菜が使われていることを知る。 主な野菜の名前とどの部分を食べているかを知る。 野菜が身体に良いことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に給食に出された野菜について名前や特徴を知る。 野菜の特徴から仲間分けの仕方を知る。 野菜を食べると体にどんな良いことがあるのかを知る。

3 単元設定の理由

児童は、小さい頃から「野菜は体に良い」「野菜を食べなさい」ということを何度も言われてきている。しかし、野菜を食べる大切さを頭では何となく分かっているが、味や見た目から自分から進んで食べようとならない児童も多い。児童は、甘いもの、しょっぱいものが好きで、野菜の苦みや渋みはどうしても好きになれないようだ。ただ単に「野菜は体に良いのだから食べなさい。」と言うだけでは、野菜嫌いの児童はなかなか食べるようにならない。

しかし一方で、日々様々な新しいことを吸収していく1年生は、「好き」も「嫌い」もちょっとしたきっかけで左右されることがある。「野菜が嫌い」という理由も、過去の一度か二度の経験から来る負のイメージによるところが大きいと思われる。本単元では、まず、多くの野菜を見て、触れて、いろいろな情報を知ること、で、「そうなんだ」「何だか気になる」という野菜に対する興味をもたせたい。そ

して、野菜を食べると体にどんな良いことがあるのかを分かりやすく示し、野菜が自分の健康な生活のために欠くことのできないものであることを具体的に理解することで食べる意欲につなげたい。それを続けることでいつしか嫌いだった野菜も食べられるようになり、やがて「好き」という感情に結び付いていくのではないかと考える。

児童は、普段何気なく食事をとっているため、毎日の献立に使われている野菜の名前や種類などを意識せずに過ごしている。児童にとって身近な毎日の給食にどんな野菜が使われているか、それらの野菜はどこを食べていて、体の中でどんな働きをするのか、日頃から教室や家庭でそうした話題に触れることでもっと野菜に興味をもたせたいと考える。そして苦手な野菜を減らし何でも食べられるようになってほしい。そのような願いを込めて本単元を設定した。

4 児童の実態

○児童の実態

入学当初は、好き嫌が多く、時間内に完食する児童は少なかった。しかし、自分で量を考え、時間内に食べきるというめあてを決めてからは、残さず食べる児童が増えてきた。その一方で、初めから野菜を減らす児童が多くみられ、野菜への苦手意識が強い児童が多いことが分かってきた。

食に関するアンケートの結果、嫌いな野菜として下記のものがあがった。

ゴーヤ、パプリカ、キャベツ、トマト、じゃがいも、かぼちゃ、ブロッコリー、グリンピース、とうもろこし、うど、なす、おくら、ピーマン、れんこん、ごぼう、アボカド、みょうが、玉ねぎ、長ネギ、ニンジン、青大豆、きのこ、パクチー

一部を除けば、日々の献立によく使われている野菜ばかりであるが、給食の様子を見ている限りでは、食べることに苦労している様子はない。しかし、野菜の多く入った献立になると、減らしたり、残したりする子がいつもより増える。「おいしくなさそう」というイメージが働き、がんばって食べてみようとは思わないのだろう。

○育てたい児童像

少しでも野菜を知り、興味をもたせるために、1学期の後半から、「今日の野菜な～んだ？」という時間を給食の時間に設定し、その日の献立に入っている野菜の実物を児童に見せることによって興味を喚起している。また、この単元で野菜を実際に触って仲間分けをしたり、野菜を食べる良さを知ったりして関心を持ち、食べてみようとする児童を目指す。

5 主題に迫るための手だて

(1) 知ろう！

①教材の工夫

- ・食べている部分を当てるゲームなど、児童が興味・関心を持ちながら知識を得られるようにする。
- ・実生活との関連を意識し、授業内容を身近に感じさせるために、授業日当日に給食で使用された野菜やアンケートで苦手な野菜として多くの児童が挙げた野菜を使用する。

(2) 考えよう！

①具体的資料の活用

ふだん食べている野菜のどの部分を自分たちが食べているのかを、実際の野菜を直接見たり、触ったり、臭いをかいだりしながら考えさせる。

②学習形態の工夫

野菜のどの部分を食べているのかを考える際に、児童の問題意識を高め、考えを深めさせるためにグループで話し合う。

(3) やってみよう！

①好き嫌いなく食べることの日常化

野菜を食べる良さを知り、野菜に対する興味や関心が高まった中で、学習したことを日常の生活に結び付ける手だてとして「やさいたべたよ カレンダー」を活用する。また、ふだんの給食でも「今日の野菜コーナー」として野菜を紹介し、本単元で学んだことを想起させる。

②家庭との連携

- ・家庭でも野菜を食べているかを保護者と児童が「やさいたべたよ カレンダー」を使って一緒にチェックすることで、保護者の意識も高める。
- ・食に関するアンケート調査結果を保護者会で提示し、情報共有することを通して、健康教育に対して保護者に理解をしてもらうだけでなく、保護者同士の共通理解も図る。

6 学習過程（1時間扱い）

【知】知ろう

【考】考えよう

【や】やってみよう

時	ねらい	児童の主な活動	評価規準
1 (本時)	・野菜に対する興味や親しみをもつことができる。	○今日の給食の献立に入っていた野菜を思い出し、野菜を触ってみる。【知】 ○野菜のどこを食べているのかグループで相談する。【考】	・野菜に対する興味や親しみをもち、感想に表すことができる。(発言・態度) ・給食に使われている野菜に気付いている。(発言)
朝の会・帰りの会	・野菜を食べるとどんな良いことがあるか知り、健康のために好き嫌いせずに野菜をしっかり食べようとする意欲をもつ。	○野菜がどうして身体に良いのかを知る。【知】 ○野菜を食べることについて自分なりのめあてをもつ。【考】 ○「やさいたべたよ カレンダー」のやり方を知る。【知】 (→家庭での実践へとつなげる。)	・野菜を食べる良さについて考えている。(態度)
(給食の時間) 事後	・給食に登場する野菜の名前を知り、残さず食べようとする。	○今日の献立の中の野菜から一つを選び、実物を見せ、何の野菜で、どの献立に入っているか考える。【考】 ○その野菜を食べた感想を言う。【や】	・「カレンダー」に記録することを通じて進んで野菜を食べようとしている。(態度)

→2年生の総合的な学習の時間「野菜を育てよう」につなげる

5分

3. 答え合わせをする。

(時間があれば、ブロッコリーと玉ねぎを問題で出す。)



○長机を用意して、野菜を動かしながら仲間わけの正解が確認できるようにする。

え、にんじんはくきだと思っていた。根っこなんだ。

答え合わせをするたびに歓声が上がります。ほとんどの班は正解でしたが、中には意外なものもあったようです。

10分

4. 本時を振り返り、一言感想を書く。

5. 自分が毎日どんな野菜を食べているか、「やさいたべたよ カレンダー」に取り組むことを知らせる。



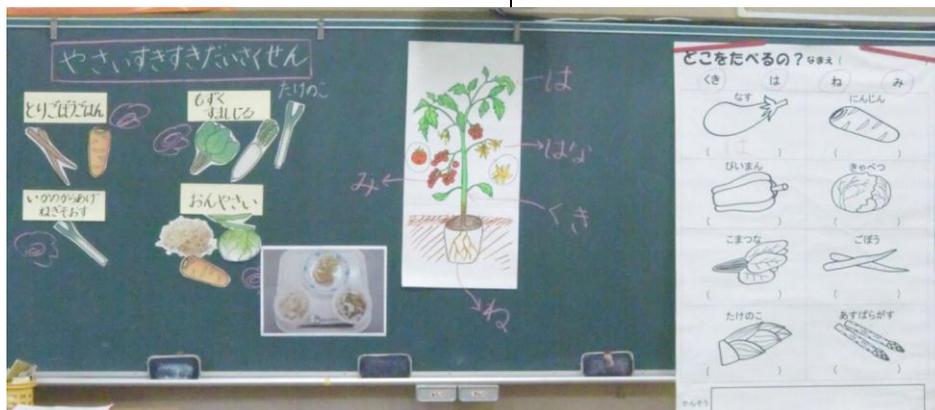
いろいろなやさいのことがわかって楽しかったです。

これからもやさいのことをしらべてみたいです。

まだ書くことに慣れていない1年生ですが、楽しい活動の後で一生懸命に感想を書くことができました。最後は担任の先生の「これからも野菜を食べるぞ〜！」という掛け声に、大きな声で「オー！」と答えて授業を終えました。

☆色々な野菜を知り、興味をもっている。(ワークシート)

板書



準備・・・給食の写真、野菜（なす、ピーマン、たけのこ、アスパラガス、ごぼう、にんじん、こまつな、キャベツ、ブロッコリー、玉ねぎ 各2つずつ）、仲間わけワークシート、拡大したワークシート、長机、野菜を入れるバット、トマトの絵

8 資料

どこをたべるの？ なまえ ()

くき はっぱ ね み

<p>なす</p>  <p>()</p>	<p>にんじん</p>  <p>()</p>
<p>ピーマン</p>  <p>()</p>	<p>きゃべつ</p>  <p>()</p>
<p>こまつな</p>  <p>()</p>	<p>ごぼう</p>  <p>()</p>
<p>たけのこ</p>  <p>()</p>	<p>あずばらがす</p>  <p>()</p>

かんそう



↑当日使った野菜

やさいはきすきだいさくせん!

かれんだあ

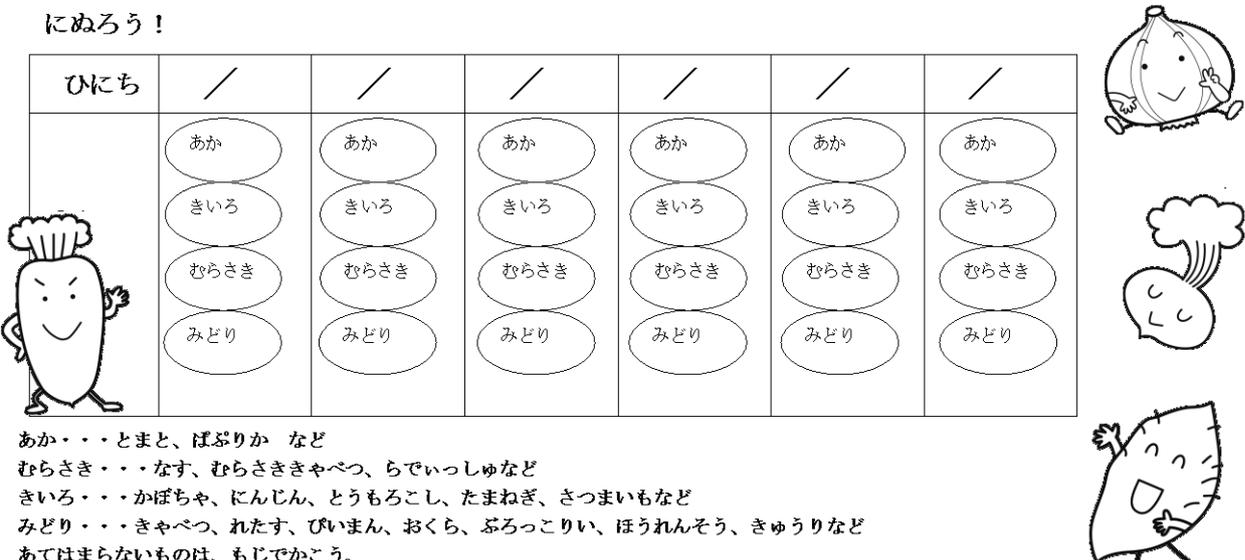
やさいたべたよ! カレンダー

1ねん くみ なまえ ()

★そのひたべたやさいのいろをぬってみよう。まいにちいろいろなやさいをたべて、カレンダーをカラフルにぬろう!

ひにち	/	/	/	/	/	/
	あか	あか	あか	あか	あか	あか
	きいろ	きいろ	きいろ	きいろ	きいろ	きいろ
	むらさき	むらさき	むらさき	むらさき	むらさき	むらさき
	みどり	みどり	みどり	みどり	みどり	みどり

あか・・・とまと、ぼぶりが など
 むらさき・・・なす、むらさききゃべつ、らでいっしゅなど
 きいろ・・・かぼちゃ、にんじん、とうもろこし、たまねぎ、さつまいもなど
 みどり・・・きゃべつ、れたす、ピーまん、おくら、ぶろっこりい、ほうれんそう、きゅうりなど
 あてはまらないものは、もじでかこう。



しょくにかんする アンケート

1年 組 なまえ

☆境南小学校で食育を推進していくための参考にいたします。ご協力よろしくお願いします。
お子さんと一緒に、お答えください。

①	家でも学校でも やさいをのこさずたべていますか。	いつも たべている	ときどき たべている	あまり たべていない	たべていない
②	いちねんせいになってたべられる ようになったやさいはありますか。	ある	ない	「ある」場合は、具体的に記入してください。	
③	にがてなやさいはありますか。	ある	ない	「ある」場合は、具体的に記入してください。	
④	お子さんに野菜を食べさせるための 工夫はありますか。	ある	ない	「ある」場合は、具体的に記入してください。	
⑤	お子さんは、家でお手伝いをしてい ますか。(食事に関して)	して いる	して いない	「している」場合は、具体的に記入してください。(例：食器並べ、野菜の皮むき等)	

〆切 7月9日(木)

27年度 1年食育アンケート集計表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	
氏名																																								
①	1	2	1	2	1	3	2	3	1	2	1	2	3	2	2	1	1	1	1	2	2		2	2	1	2	2	1	2											
②	1	1	2	2	2	1	2	1	2	2	2	1	2	2	1	2	1	2	2	1	2	1	2	1	2	1	2	2	1											
③	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	2	1	2	1	1	2	2	1	2	1	2	1	2	1	1										
④	1	1	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1											
⑤	1	1	1	2	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1										

1-1<合計>

	4	3	2	1
①	0	3	14	11
②			17	12
③			9	20
④			4	25
⑤			4	25

- ※ ① 1 ⇒ いつもたべている 2 ⇒ ときどきたべている 3 ⇒ あまりたべていない 4 ⇒ たべていない
 ② ~ ④ 1 ⇒ ある 2 ⇒ ない
 ⑤ 1 ⇒ している 2 ⇒ していない

1年<合計>

	4	3	2	1
①	2	7	35	41
②			53	32
③			22	64
④			19	66
⑤			9	77

- ② 記述 ・ピーマン(複数)・ふき・トマト・ねぎ・サトイモ・なす・レタス・きのこ・きゅうり・
- ③ 記述 ・ゴーヤ・パプリカ・きのこ・キャベツ・キャベツの芯・生野菜(複数)・トマト(複数)・じゃがいも・かぼちゃ・ブロッコリー・グリーンピース・とうもろこし
 ・うど・なす・おくら・ピーマン(複数)・れんこん・ごぼう・アボカド・みょうが・パクチー・玉ねぎ(複数)・長ネギ・人参・パプリカ・青大豆・
- ④ 記述 ・小さく刻む(複数)・味付け(複数)・炒める・好きなものに混ぜる(複数)・汁物、スープにする(複数)・存在感をなくす・学校で食べれたものを家でも作る・ドレッシングを使う(複数)・柔らかくする・カレーハンバーグに混ぜる・好きなものに混ぜる(複数)・調理に参加させる・カラフルにする・見た目を良くする・一食に色々な野菜を入れる・蒸揚げをする・ゆでる・声かけ・自分で野菜を育てる・
- ⑤ 記述 ・食器片付(複数)・野菜切り(複数)・食器並べ(複数)・箸並べ(複数)・食器洗い(複数)・野菜皮むき(複数)・家族を呼びに行く・テーブル拭き・炒める(複数)・ご飯をよそう(複数)・餃子の皮包・卵焼き作り・野菜を取ってくる・飲み物の用意(複数)・味噌汁作り(複数)・卵割(複数)

教室の掲示（1日に1つの野菜を取り上げて話題にする「きょうのやさいなーんだ？」のコーナー）



9 成果と課題

成果

- ・今日の給食に出た野菜の名前を児童がすぐに言い当てることができた。そのことから今日の野菜コーナーなどの、日頃からの指導が生きていることを感じた。
- ・具体的資料の活用として、実物の野菜を用意した。それを、直接見たり、触ったりしたことで、児童が重さ、色、におい、手触りなど、あらゆる観点から考え、根拠をもって答えを出そうとすることができた。
- ・グループで話し合う活動を取り入れたことで、児童同士が活発に意見を出し合い、互いの思考を深めることができた。

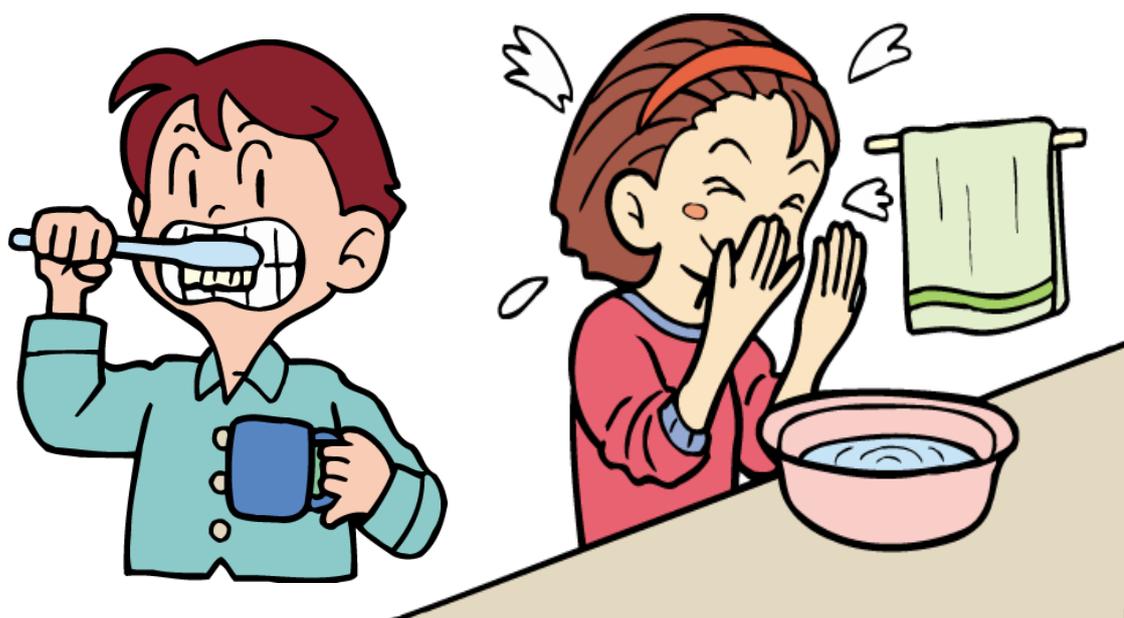
課題

- ・用意する野菜を畑から採られた状態や土がついたものなどを用意すると、さらに広い観点で児童が考えたかもしれない。
- ・学習の形態の工夫として、答えを発表する時に、どうしてその答えを導き出したか理由を言わせても良かった。また、グループ同士、意見を共有する機会を与えても良かった。
- ・今回の授業を通じて、日常的・継続的な指導の大切さをあらためて実感したが、それらを学年や学校全体で共有し、系統的な実践につなげていく道筋を十分検討する必要がある。

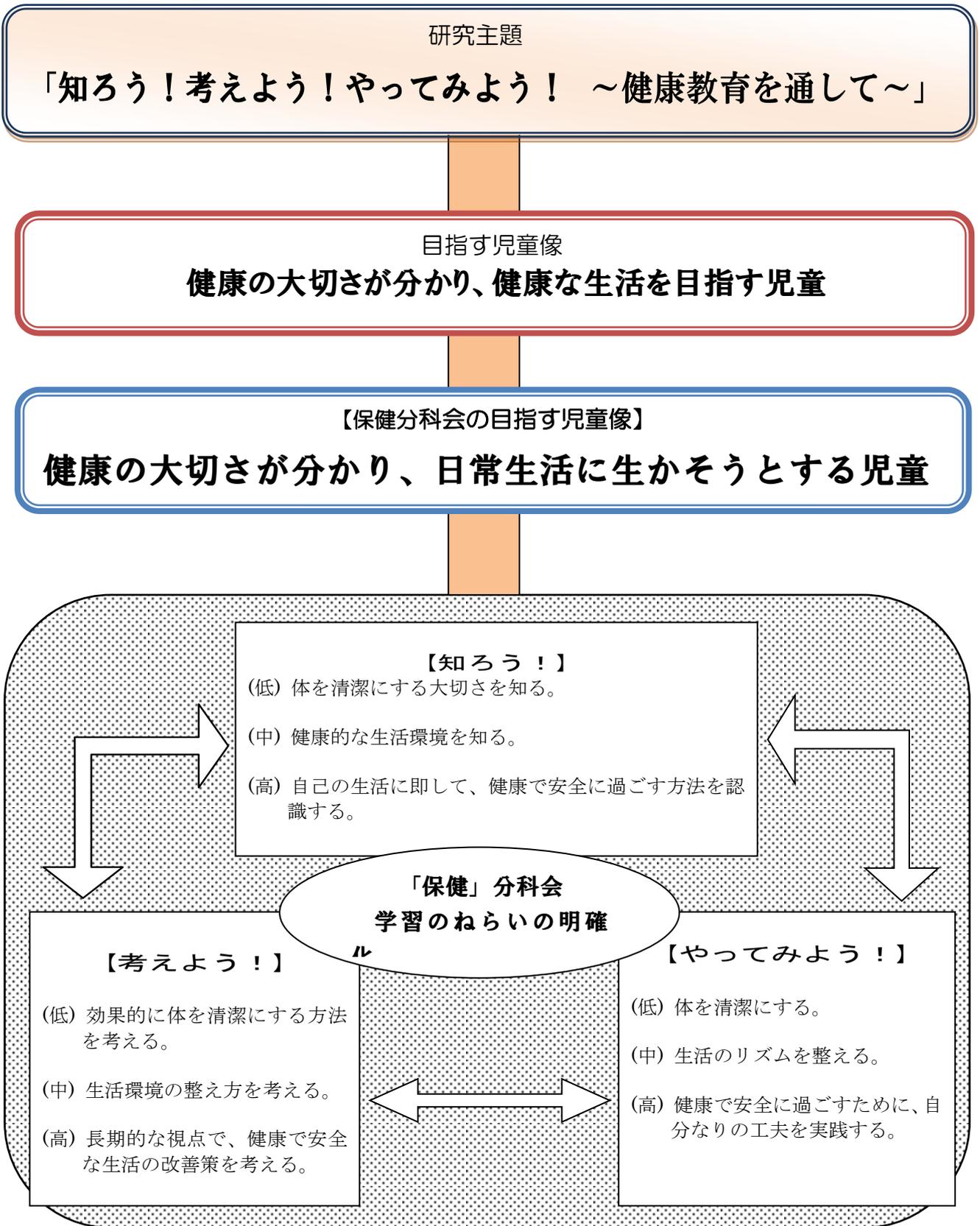
保健分科会

目指す児童像

健康の大切さが分かり、日常生活に生かそうとする児童



保健分科会研究構想図



**3
年****学級活動（保健）『かむかむ大作戦』****平成27年7月1日（水） 第3学年2組 指導者 田中悠貴****1 単元のねらい**

- 自分の歯を大切にする気持ちを持ち、今の自分にできることを考える。
- 歯の健康と、噛むこととの関わりを知り、よく噛むことの大切さを理解する。
- よく噛む習慣を身に付けるための活動に学級で取り組み、よく噛むことを習慣付ける。

2 単元の評価規準

	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
健康で安全な生活への関心・意欲・態度	・歯を健康に保つことと良く噛むこととの関連に関心を持ち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	・よく噛むことの重要性に気づき、積極的に活動に取り組んでいる。 ・家庭で実践する手だてを考えてワークシートに書いている。
健康で安全な生活への思考・判断・実践	・普段の自分の噛む回数や歯の健康について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、実践している。	・よく噛むために考えた手だてを実践している。
健康で安全な生活についての知識・理解	・よりよい生活のために噛むことが大切なことやその学習の仕方などについて理解している。	・「噛むこと」の働きについて理解する。 ・よく噛むことを習慣付けることの大切さを理解している。

3 単元設定の理由

乳歯から永久歯への生え変わりは6歳ごろから12歳ごろとされ、小学校中学年は乳歯と永久歯が混在する時期である。大きさの異なる歯が混在するこの時期は、歯磨きが難しくむし歯になりやすいと言われている。本学級においては、アンケート結果から、歯磨きについての意識は高く、多くの家庭の協力も得られている。その一方で、噛むことに対する児童自身の自己評価と、担任が捉える実態の間にはギャップが見られる。

『「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり』（平成23年 文部科学省）では、歯・口の健康づくりには、歯磨きだけでなく食生活や生活習慣も重要であるとされ、食事・間食指導のポイントとして、（1）間食を上手にとる （2）食事をしっかりとる （3）よく噛んで、味わって食べるの3点が挙げられている。そのうち、学校生活の中で取り組み家庭でも還元できること、児童自身が生活の中で意識して取り組めることとして、（3）の噛むことに焦点を当てた指導を行いたいと考えた。

4 児童の実態

○児童の実態

歯科医による定期健診を受けている児童は、37名中24名と多い。しかし、実際に個別に話を聞く
と定期的に行っている児童はアンケート時より少ない。その理由としては習い事の増加と家族の多忙さ
が考えられる。いくつもの習い事を掛け持ちしているため、歯医者に行く時間がない。また、家族の帰
宅が遅くなることで受診することが難しい状況である。

歯磨きに関しては夜に丁寧に磨く児童が朝よりも8名多い。さらにお家の人からの仕上げ磨きをする
児童は37名中21名おり、家庭でも歯に関して取り組んでいることがわかる。

よく噛むことに関しては37名中30名の児童がよくかんでいると回答している。しかし、普段の給
食時間中に水を飲みに行く児童が多い。また10分以内で給食を終える児童も見られ、児童の中で「よ
く噛む」という意識に違いがみられる。

○育てたい児童像

歯磨きや歯医者に行くだけが歯を大切にしている行為ではなく、普段から何気なく行っている「噛む」と
いう行為が歯を大切にすることを知り、進んで噛む行為を行う児童を目指す。

また、本単元では、「よく噛む」ということを「粒がなくなるまで形状を変化させること」と定義し、
児童にそのことを認識させ、日々の生活の中で食事の際は意識して「よく噛む」という態度を養うこと
を目指す。

5 主題に迫るための手だて

(1) 知ろう！

①視覚的教材の活用

永久歯が揃っている場合と、乳歯や永久歯が混在したり抜けている歯があったりする場合の噛み
合わせの違いを知るために、歯の噛み合わせを比較できるイラストを提示する。

②歯科検診を活用した教材の工夫

今の自分の歯の状態を知るために、歯科検診の結果から児童一人一人の乳歯や永久歯、抜けてい
る歯をイラストで表したプリントを配布する。

(2) 考えよう！

①アンケートの実施

事前に児童へ歯に関するアンケートを取り、集計結果を提示し、現状把握をさせることで、児童
自身が生活環境を整えようとするきっかけ作りを行う。

②体験的な活動を取り入れた気付き

よく噛むと食べ物の形状はどのように変化するのかを考えるために、ご飯一口分をビニル袋に入れ、
手で潰す活動を通して視覚的に分かるようにする。

③学習形態の工夫

授業での気付きを増やし、学習意欲を高めるために、ご飯をよく噛んで気付いたこと、よく噛む
ために日常生活の中でできることについてワークシートに書き込む。それをもとにグループで互
いの考えを伝え合い、次に学級全体で話し合いをしてさまざまな考えを共有できるようにする。

(3) やってみよう！

①体験的な活動を取り入れた意識付け

「よく噛む」ということをより理解できるように、ご飯をビニル袋に入れ手で潰す活動の後、実際にご飯一口分をよく噛み、口の中のご飯の形状が変わっていく様子を鏡で見ながら体感させる。

②よく噛むことの日常化

クラスで考えたよく噛むための方法を給食時に実際に行うことで、意識しながら継続的に取り組み、習慣化できるようにする。

③家庭との連携

学校で記入したワークシートを家庭に持ち帰り、保護者からもコメントを書いていただくことで学校での取組を理解していただき、家庭でもよく噛むことを意識して食事することを協力していただく。

6 学習過程（5時間扱い） 【知】知ろう 【考】考えよう 【や】やってみよう

時	ねらい	児童の主な活動	評価規準
1 (本時)	「かむかむ大作せん(1)」 ・噛むことの大切さを知り、ものをよく噛むということについて理解を深める。	○歯を長生きするためにできる手だてを知る。【知】 ○よく噛むとはどういうことを考える。【考】 ○噛むことで食べ物の形状が変化することを実感する。 【や】	・よく噛むことを習慣付けることの大切さを理解している。(知識・理解) ・よく噛むことのよさについて考えながら体験している。(思考・判断・実践)
2	「かむかむ大作せん(2)」 ・「よく噛む」ことを習慣付ける意識をもつ。	○よく噛むことを皆に習慣付けるためにとれる手だてを知り、実行する計画を立てる。【や】	・よく噛むことの重要性に気付き、積極的に活動に取り組んでいる。(関心・意欲・態度) ・よく噛むために考えた手だてを実践している。(思考・判断・実践)
給食	・クラスで考えたよく噛むための手だてを実践してみる。	○給食中にかむかむタイム(3分間黙ってよく噛むことを意識する)を実践する。 ○給食の献立の中で硬い献立や食材を係が発表して特によく噛むものを意識する。	・よく噛むために考えた手だてを実践している。(思考・判断・実践)
家庭	・考えた手だてを家でも話し、食事の時に実践してみる。(反省、感想などを書く)	・かむかむタイムを実践する。	留意点 ・学習を振り返って書いたワークシートに、保護者の方からのコメントを入れていただき、家庭での意識付けに繋げる。
事後	実践したことを振り返り、よく噛むことについて自ら評価する。		

7 本時の学習 (1/2)

(1) 本時のねらい

○噛むことの大切さを知り、ものをよく噛むということについて理解を深める。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意事項	☆評価
7分	<p>1. 歯について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯には乳歯と永久歯がある。 ・乳歯・永久歯の特徴を知る。 ・今の自分は乳歯と永久歯のどちらが多いのか知る。 <p>2. 自分の歯について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の歯の状況を知る。 ・鏡で自分の歯の乳歯と永久歯を見比べる。 ・今の口の中の状態でなぜ、よく噛むことが求められるのか知る。 	<p>○児童の実体験を想起させる。</p> <p>○視覚資料を見せる。</p> <p>○教材を配る。</p> 	<p>鏡を使って、大きい歯と小さい歯が混在している様子を確認しました。</p>
13分	<p>3. 「よく噛む」ということを体感する。</p> <p>①視覚で感じる。</p> <p>ご飯一口分と少量の水が入ったビニル袋を手で潰し、噛むことの疑似体験をして形状が変わる様子を観察する。</p>	<p>○事前にご飯一口分を人数分ビニル袋に分けておき、配布する。</p> <p>○形状をよく見るように言葉がけする。</p> <p>○事前にご飯一口分を人数分ラップに分けておき、配布する。</p> <p>○鏡を配布する。</p> <p>○ラップはすぐに回収する。</p>	<p>手でお米を潰し、「よくかむとはおかゆ状になる」ということを指先の感覚と視覚で確認しました。</p> 
13分	<p>②実際にご飯一口を口に入れ、よく噛む。</p>	<p>○口の中を確認する際、鏡はご飯が落ちないように、持つことを言葉がけする。</p> <p>○口腔内の形状を適宜鏡で確認し、視覚で押さえた形状に近付いたか確認するよう言葉がけする。</p>	<p>☆よく噛むことの良い点について考えながら体験している。【観察】</p> 
4分	<p>4. 実際によく噛んでみて気付いたことを発表する。</p>		
5分	<p>5. 本時を振り返り、感想を書く。</p>	<p>○感想の中に、これから取り入れていきたいことを書くように指示する。</p>	<p>友達の発表を聞いた後、感想を記入しました。</p>

		○ご飯が入ったビニル袋を回収する。	☆よく噛むことを習慣づけることの大切さを理解している。 【観察・ワークシート】
--	--	-------------------	--

8 資料（実際に授業で使用した掲示用資料やワークシートなど）

- ①『歯ならび表』・・・歯科検診の結果をもとにした一人ひとりの永久歯・乳歯の表
- ②『かむかむ大作せん!』・・・学習の感想や保護者からのコメントを記入するワークシート
- ③『歯に関する調査』・・・実態を把握するための事前調査

潰し具合のいいお米の浸水時間の検討。結果、3時間の時間を選択しました。



【集計結果】 歯に関する調査

調査実施日：平成27年5月14日

3年2組 名前 _____

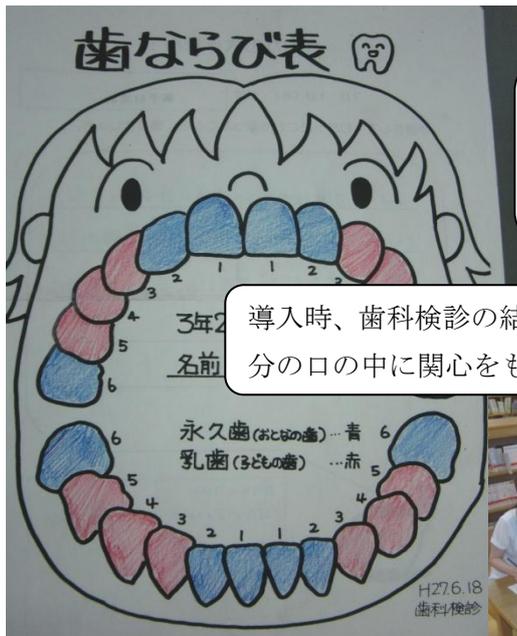
☆ 37人中、36名回答

	しつもん	こたえ 近いものに○をつける
1	よくかんで食べている	はい【30】 いいえ【5】
2	食べるスピード	はやい【6】・ふつう【25】・ゆっくり【4】
3	かたいものもよけず食べている (せんべい・パンの耳・小魚など)	はい【27】・いいえ【7】
4	ていねいにはみがきをしている	朝：はい【19】いいえ【13】 夜：はい【27】・いいえ【3】
5	いつも、ていねいにみがきがないので、むし歯があるかもしれない。	はい【9】・いいえ【25】
6	おうちの人に仕上げみがきしてもらっている	はい【21】・いいえ【14】
7	定期的に、歯医者で口の中をみてもらっている (1年に1回、半年に一回、その他)	はい【24】・いいえ【10】
8	食事の時の飲み物 ※給食をのぞく	水【24】・お茶【23】・麦茶【19】・ジュース【8】 牛乳【19】・みそ汁【24】 その他()
9	お菓子やおやつをたべる回数(デザートは除く) 例↓ ・アメ ・チョコ ・キャラメル ・クッキー ・グミ ・アイス ・甘いせんべい など	まいにち【13】・休みの日だけ【5】時どき食べる【11】・全く食べない【0】 ほとんど食べない【4】 その他()
10	ジュースを飲む回数(オレンジジュース、野菜ジュース、スポーツドリンクなど)	まいにち【5】・休みの日【3】 時どきのむ【19】・全く飲まない【3】 ほとんど飲まない【4】 その他()
11	良い歯にするために気をつけていることは何ですか 記入例↓↓ ・キシリトール入りガム【7】・デンタルフロス【2】 ・糸ようじ【8】・はみがきこ【18】 ・朝・夜みがく【12】・カルシウムをとる【8】 ・歯医者でフッ素をぬる【7】 ・食事の後に水やお茶を飲む、うがい【13】 ・鏡を使ってていねいにみがく【10】	☆ここに記入 夜みがく【4】

担任が児童の給食の様子を観察していると、おしゃべりが多い、よく水を飲みに行く、早食いをしている、という実態がありました。
しかし、アンケートの結果、「よくかんでいる」と答えた児童が多かったです。
もしかすると、児童はよくかめていないのに「よくかんでいる」と思っているのではないのでは



「よくかんでいる」ということはどういうことなのか、指導するきっかけとなったデータです。

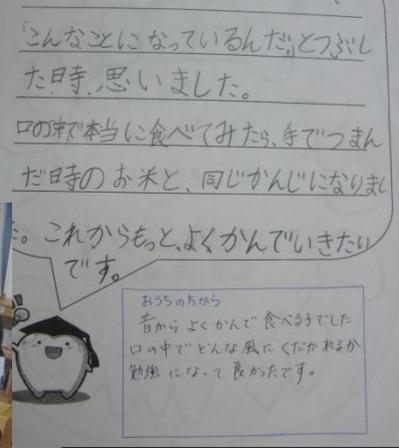


歯ならび表は保健分科会の担当者が色塗り。歯式の読み方も勉強になりました。

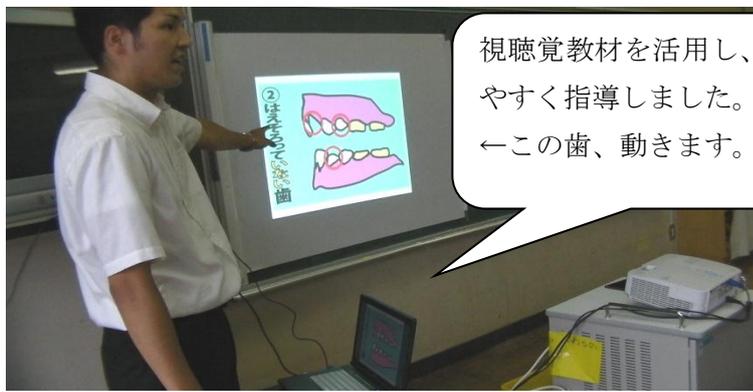
導入時、歯科検診の結果を元に、自分の口の中に関心をもたせました。



指先で潰したお米と、口の中でかんだお米の状態が同じになりました。



授業後、歯科校医さんが生えかわり時期の歯学模型を使用し、咀嚼効率の話をしてくださいました。



視聴覚教材を活用し、わかりやすく指導しました。
←この歯、動きます。



9 成果と課題

成果

- ・ 歯科検診を活用し、作成した歯並び表は、自分の歯の状態を理解するのにとても有効であり、よくかむことの大切さを、身をもって実感することにつながる教材であった。
- ・ よく噛むために児童同士が声を掛け合い、噛むことを意識し合っている様子が給食中に見られた。
- ・ 具体物を使って体験的な活動を行ったことは、よくかむことを視覚的にとらえることができ、理解が深まった。
- ・ ワークシートを家庭にも持ち帰り、コメントを書いていたことで、噛むことの大切さを保護者の方にも啓発できた。学習したことを家庭でも取り組んでもらえる様子がワークシートから見て取れた。

課題

- ・ 実際に口に入れる活動は衛生上よいのか、また、食べ物を大切にする観点でお米を潰すという活動がよいのか事前にもう少し検討しておくべきだった。
- ・ よくかむことだけでなく、かむことの良さを考えさせても良かった。
- ・ 学級活動で2時間とるのは多すぎた。時数を考えるべきであった。
- ・ プレゼンテーションソフトを使った教材は、児童の興味を引くことができたのでよかったが、画面が変わっても大切なことを想起できるように、キーワードを板書して残しておく必要があった。
- ・ 家庭への啓発が一部に留まってしまった。

1 単元のねらい

- 手洗いの大切さを実感し、ていねいに手を洗おうとする意欲をもつ。
- 自分自身の生活体験や、実際の手洗い体験をもとに、自分なりのめあてを決めて取り組む。
- 自分自身の手の洗い方を振り返り、これからどんな手の洗い方をすればいいのかが分かり、実践することができる。

2 単元の評価規準

	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
健康で安全な生活への関心・意欲・態度	・手洗いの大切さを実感し、ていねいに手を洗おうとする意欲をもつことができる。	・手順を確認しながら意欲的に手洗いをしている。
健康で安全な生活への思考・判断・実践	・学んだことから、手を清潔にするためのめあてを自分で決め、実践している。	・自分なりの手洗いのめあてを書いている。 ・自分が決めためあてに沿って手洗いに取り組んでいる。
健康で安全な生活についての知識・理解	・自分自身の手の洗い方を振り返り、これからどんな手の洗い方をすればいいのかが分かる。	・手洗いのポイントをおさえて洗っている。

3 単元設定の理由

児童にとって手洗いは、学校内外を問わず取り組める、また身につける必要のある重要な基本的生活習慣の1つである。体育や休み時間の後や給食の前など手洗いが必要となる場面は多く、一人一人の手洗いの様子を細かく観察すると、洗い方や拭き方は形式的な行動にとどまっている児童も多く、手洗いが大切であることが分かり、自分から実践しようとするところまでは至っていない。

そこで本単元では、「なぜ手洗いをするのか」「どのように手洗いをすればよいのか」を知ることで、手洗いの大切さに気付き、自分で目標を立てて取り組めるようにすることを重視した。それによって、日常生活の中で手洗いを進んで実践できるようにすることを目指し、本単元を設定した。

4 児童の実態

○児童の実態

7月中旬に児童の手洗いの様子をビデオで記録したり、実際に児童の手洗いの状況を見たりして、児童の実態を把握した。よく見てみると、石鹸を使わず水で濡らしただけで終わる児童や手のひらだけをこすって終わる児童など、洗い方が十分ではなかったり、せっかく洗ってもきれいなハンカチで拭かなかったりする姿も見られる。このような姿から、多くの児童は手洗いが大切であることを漠然と知って

はいるが、日々繰り返される日常生活の中できちんと手を洗うという行為が次第に怠りがちになっていくことが見て取れた。そうなる原因として①手をきれいに洗わなくてもすぐに問題が起こらず必要性を感じない②汚れや病原菌などが目に見えないので実感しにくい③手をきれいに洗わないと、どうなるのか、具体的に分からないなどが考えられる。

○育てたい児童像

手洗い前の手から採取したばい菌を寒天培地で培養し、目に見えないばい菌を可視化させて提示することで、普段は目に見えない「ばい菌」を知ることができる。また、この「ばい菌」が体内に入ってしまったら、人の体はどうなってしまうのかを児童に考えさせる。これにより、手洗いをなぜしないといけないのか児童一人一人が実感できるようにする。さらに、基本的な手洗いの仕方を例示し、実際に手洗い場で体験する機会を設けることで、今後自分がどのように洗えばよいのか自己決定し、実践できる児童の育成を目指す。

5 主題に迫るための手だて

(1) 知ろう！

①視覚的教材の活用

目に見えない「ばい菌」を寒天培地を用いて培養し、視覚的に捉えさせる。

②電子黒板を活用した教材

手洗いの見本として、「あわあわ博士」というキャラクターを使った映像を電子黒板で流し、手洗いの仕方を具体的に理解できるようにする。

(2) 考えよう！

①学習過程の工夫

学級の朝の時間を活用し、1日の中で体のどこの部分をよく洗うのかを考えたり、学校生活の中でどんな時に手を洗うのかを考えたりして興味を深める。

②学習活動の工夫

手洗い前に1番汚れていると思うところを予想させてから、実際に寒天培地で培養した手のばい菌を見て自分の予想と比べる活動や、ばい菌が体内に入ってしまうとどうなるのかを今までの生活経を振り返り、ペア学習で考えさせる。

(3) やってみよう！

①体験的な活動を取り入れた学習活動

電子黒板に登場する「あわあわ博士」の手洗い映像を活用し、児童は教室で手洗いの模擬体験をする。そして、手洗い場へ移動し、水道を使って手洗いを体験する。

②手を洗うことの日常化を図る工夫

1週間、手をきれいに洗う実践に取り組む。具体的には、中休み後・給食前に手をきれいに洗うことができたのかを自己チェックさせる。手をきれいに洗うことができたなら、表にシールをはる。教室に表を提示し、児童自身がどれくらい実践できているのかを把握する。

③家庭との連携

学校で実践した手洗いの仕方を学級通信を通して家庭に伝え、学習内容の共通理解を促し、家庭でも手をきれいに洗う習慣が身に付くように連携を図る。

6 学習過程（1時間扱い）

【知】知ろう

【考】考えよう

【や】やってみよう

	ねらい	児童の主な活動	評価規準
学級 (朝の会)	・自分の体の中で「きれい」「きたない」と思う場所を考え、手はどれだけ汚れているのか考える。	○絵本の読み聞かせを聞いて、清潔にすることの良さを知る。【知】 ○クイズを通して、手は、どんな時に洗うのかを考える。【考】	
1 (本時)	「きれいかな？ ぼく・わたしの て」 ・手には目に見えないばい菌がついていることを知り、手洗いの大切さに気づき、手を清潔にするためのめあてを自己決定することができる。	○手の中で汚れている部分を予想する。【考】 ○正しい手洗いの仕方を知る。【知】 ○手洗いのめあてを自己決定する。【考】	・手には、たくさんのばい菌が付いていることを知る。(知識・理解) ・手洗いのポイントを意識して洗っている。(知識・理解) ・自分なりの手洗いのめあてを書いている。(思考・判断・実践)
学級	・手洗いのポイントを学校で実践する。	○1週間、手をきれいに洗う（中休み後・給食前）。手を洗ったら、手洗いチェックシートに自分でシールを貼る。【や】	・手順を確認しながら継続的に手洗いをしている。(関心・意欲・態度) ・自分が決めためあてに沿って手洗いに取り組んでいる。(思考・判断・実践)
家庭	・手洗いのポイントを家庭にも知らせ、共有し、家庭でも実践する。	○学級通信を保護者と一緒に読み、家庭でも正しい手洗いの仕方を行う。【や】 ○保護者と一緒に手洗いについて考える。【考】	

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

○手には目に見えないばい菌がついていることを知り、手洗いの大切さに気付き、手を清潔にするためのめあてを自己決定することができる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意事項	☆評価
5分	1. 手の平で目に見えないばい菌が付いていそうなところを考える。	○手形が描かれたワークシートを配布し、一番汚れている箇所を予想させ、色鉛筆で色を塗らせる。	手をみつめながら汚れがつきやすいところを予想しました。
10分	2. 手洗い前の手から採取した寒天培地を見て、どんな所にばい菌が付いているかや気付いたことを発表する。	○事前に採取したばい菌の寒天培地（手洗い前）を提示する。 ○特に手のどの箇所にばい菌がついているかを確認する。	
22分	3. もし「ばいきん」が体内に入ってしまうとどうなるのかを考える。	○予想が出にくい児童には、「手にばい菌が付いたまま、食べ物を食べたらどうなる」と、状況を想起させる。	☆手には、たくさんのばい菌が付いていることを知る。 【観察】
	4. 手のひらのばい菌を体内に入れないためにはどうすれば良いかを考える。	○事前に採取したばい菌の寒天培地（手洗い後①水のみ②石鹸あり）を提示する。	☆手洗い場に行って、実際に手を洗いました。
5分	5. 「あわあわ博士」から手洗いの仕方を知る。 ①映像を見ながらその場で手の洗い方をまねる。 ②洗い方のポイントを知る。 ③実際に手洗い場に行き、手を洗う。	○「あわあわ博士に手洗いの仕方を教えてもらおう」と呼びかけ、手の洗い方の映像を電子黒板で提示する。 ○手洗い場に手の洗い方のイラストを掲示し、ポイントを意識して手洗いさせる。	☆手洗いのポイントを意識して洗っている。【観察】
5分	6. 今後の手の洗い方のめあてをワークシートに書く。	○ワークシートを配布する。 ○今までの自分の手洗いの仕方について振り返らせたり、手洗いするタイミングを考えさせたりする。	☆自分なりの手洗いのめあてを書いている。【観察・ワークシート】
3分	7. 決めためあてを発表する。	○児童一人一人の自己決定を認め、称賛して実践への意欲を高める言葉がけをする。	



8 資料 (実際に授業で使用した掲示用資料やワークシートなど)

- ①『きれいかな?ぼく・わたしのて』…児童に手のよごれがどこについているのかを予想させ、授業後のめあてを自己決定させるためのワークシート
- ②『寒天培地』…手についたばい菌を視覚化させる教材
- ③『あわあわ手洗いソング』…教師による手洗いの手本映像
- ④『手洗いポーズのシート』…手洗いの手本となるポーズを確認させるためのシート

手のどこにばい菌が残っているのかを予想しました。指先やしわの部分に丸をつける児童が多かったです。

今後、手洗いをする時にどのようなことに気をつけていきたいか考えて書きました。

きれいかな?
ぼく・わたしのて

組名
くみ なまき

よそうをしてみよう

てあらいのめあて

お山とハクとかめさんをもと
もつががんばりたいです。
きゆうしやくのまえといわのお
とひるやすみのあとらふ
やすみのときがんばりたいです。



どこにばい菌が残っているか

てあらいのめあて

なかやすみのあとに、
まのひらをよくあら
いたいです。ごみひろ
のときにせんぶのてのあらい
かたをがんばりたいです。

寒天培地をスクリーンに映し、手形のシートをかぶせて提示しました。ばい菌が残っているところには、電子ペンで丸をつけました。



寒天培地の提示

「あわあわ博士」の動画を見ながら、手洗いのポーズを練習しました。



手洗いの練習

水道に手洗いポーズのシートを用意し、手を洗いながら見える工夫をしました。



手洗いポーズのシート

手洗いソングに合わせて手を洗った後は、ハンカチできれいに手をふくことにも気を付けました。



手洗いソングに合わせて実践

9 成果と課題

成果

- ・授業時間内に体験的な活動を取り入れ、実際に手を洗う活動をすることで、自分が普段洗っていない方法の気付きに繋がった。
- ・寒天培地で視覚化させたばい菌や、手の洗い方の映像などの視覚的教材は、児童の活動に対する意欲付けに繋がりと、有効的であった。
- ・活動を中心に授業を展開したことで、児童が楽しく学習できていた。その気持ちが、普段の生活の中でもきちんとした手洗いをしようという意識につなげることができた。
- ・電子黒板を使い、映像で学んだ手洗いソングは、事後も児童がよく口ずさんでおり、以前よりしっかりと手を洗うことに繋がっている。

課題

- ・電子黒板や書画カメラを使った映像教材に重きを置いたため、板書が手薄になってしまった。板書を計画的に行い、学習のキーワードを板書して残しておくこと、児童が学習を振り返り、知識の定着に繋げることができると考える。
- ・健康で安全な生活についての知識・理解の評価を行動で見取る計画であったが、現実的に難しく、授業内でできる評価を考える必要があった。
- ・手の付け根やしわにばい菌が多くいることに気付かせることは1学年には難しかった。学年に応じた指導ができるよう、系統性を考えて指導に当たれるよう意識していきたい。

おわりに

副校長 入江 明子

本校では「平成26・27年度武蔵野市教育研究奨励校」「平成26・27年度東京都オリンピック・パラリンピック教育推進校」の指定を受け、「知ろう！考えよう！やってみよう！－健康教育を通して－」を研究主題として、運動・食育・保健の3分科会をおき、家庭・地域と連携し、得た知識をもとに、思考・判断し、日常的に実践できる子供の育成を目指して、研究を進めてまいりました。

教員の約半数が教職経験5年以下であり、15年以上の者は全体の約4分の1という、若手教員の多い学校です。研究当初は、以前より食育モデル校として取り組んできたことをもとにして、改めてどのような内容を、どのような方法で、何の時間を使って指導するのか、年間指導計画・評価計画を見直すところから始めました。しかし、ねらいに沿った活動の吟味、系統的・横断的な指導計画の整理等、課題も多く残りました。未熟な研究ではございますが、教員一人一人が熱心に取り組み、指導力向上につながったことは大きな成果といえます。本研究を進めるにあたりまして、武蔵野市教育委員会や丁寧な御指導・御助言を賜りました講師の先生方に心より御礼申し上げます。

今後も子供たちが生涯にわたって健康・体力に関心をもち、心身共に健康な生活を送るための実践力を身に付けられるよう研究を推進してまいります。

<御指導いただいた先生>

帝京平成大学現代ライフ学部児童学科教授
東京学芸大学名誉教授 立木 正 先生

文部科学省初等中等教育局
健康教育・食育課 健康教育調査官
スポーツ庁 政策課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター
研究開発部教育課程調査官 森 良一 先生

帝京大学医療科学部作業療法学科教授
石井 孝弘 先生

東京学芸大学教育学部准教授
鈴木 聡 先生

元東京福祉大学教育学部教授
武蔵野大学教育学部講師 橋本 由愛子 先生

横浜国立大学人間科学部准教授
物部 博文 先生

国士舘大学体育学部体育学科教授
田口 康之 先生

国士舘大学体育学部教授
こどもスポーツ教育学科主任
小学校学習指導要領解説体育編作成協力者
池田 延行 先生

<研究に携わった教職員>

校長	藤橋 義之	副校長	入江 明子	◎研究主任	峰尾 恭子(5年2組)
1年1組	林 有里子	4年2組	藤野 充	少人数算数	渡邊 祐美
1年2組	宮内 優香	4年3組	雨谷 若菜	栄養教諭	諏訪 久子
1年3組	伊東 隆一郎	5年1組	寺尾 桂	けやき学級	諏訪 純子
2年1組	渋谷 麻里	6年1組	愛甲 剛	けやき学級	八代 史子(幹)
2年2組	鈴木 美和	6年2組	上川 あゆみ	けやき学級	真野 聡
2年2組	田中 明子	6年3組	大森 智仁	けやき学級	清原 義玄
2年3組	和嶋 祥	図工専科	木田 庸夫	けやき学級	佐光 美紀
3年1組	加藤 裕康	音楽専科	今村 毅彦	いとすぎ学級	川口 尚人
3年2組	田中 悠貴	養護教諭	根本 真澄	いとすぎ学級	結城 尚子
4年1組	島田 就二	少人数算数	村越 夏子		

(平成26年度) 黒沼 京子(幹) 神尾 洋介 岡安 美絵子 可児 敬子

平成26・27年度 武蔵野市教育研究奨励校

研究紀要

武蔵野市立境南小学校

武蔵野市境南町2丁目27番27号

Tel 0422-32-3401

Fax 0422-32-1943